

平成28年度 事業報告書

I. 松山紅梅会・法人関連

【平成 28 年度のまとめ】

平成 28 年度は制度上の大きな変動は無く、法人においては安定した経営と運営を目指し、人財育成と働く環境整備に努めた 1 年であった。

近年、福祉業界全体の課題となっている福祉人財不足への取り組みとしては、人財確保及び離職減の両面から、役職者の給与形態を見直し、希望をもったキャリアアップに繋がる環境となることを目標としていたが、抜本的な給与改定に至らず、平成 29 年度以降へ課題を持ち越すこととなった。

又、特養において、同じ時期に多くの退職者があり、その後も容易に職員の補充が進まず、残された職員に負担を強いる形となり、法人として目指していた働きやすい環境と真逆の方向に進んでしまうという反省点も残った。

ただ、その状況において、新しく採用された職員に対して、継続した就労に繋がるよう、丁寧な指導法に見直したことや、職場の雰囲気や負の連鎖に繋がらないよう職員自らが明るい雰囲気づくりに取り組むなどの残された職員の対応力の高さが発揮されたところもあり、これまでの人財育成での梅本イズムが浸透していることを感じる一面もあった。

これら法人の目標とした人財の育成と働く場の環境整備については、平成 27 年度に発足した「教育委員会」と今年度新たに発足した「福利厚生委員会」を柱として取り組んだ。

人財育成の充実を目指した「教育委員会」においては、年間を通じて職員が求める研修の実施に向けることができ、研修面での成果は残せたが、2 年目を迎えた委員会の中で停滞した部分があったことも事実で、研修内容に特化した役割を担ってしまった部分が多く、委員会設置当初の目的であった法人の人財育成を目的とした基本的な育成方法の研究についての活動が欠けてしまったところがある。

「福利厚生委員会」については発足 1 年目ということもあり、法人の職場環境や現在ある制度や規程の研究に時間を要した部分が多く、委員会がイメージしていたとおりの成果には辿り着くことはできていない。

様々な課題を残した 2 つの委員会ではあるが、様々なことに気づかされる 1 年でもあり、次年度に向けての方向性を定められることができた年であり、更なる飛躍に向けられるものと感じている。

このように多くの課題を残し、目標に至らなかったことが多かった 1 年ではあったが、人財不足に陥った状況に対して、全部署の連携で対応を行うなど、職員の成長がみられた年でもあり、法人として最も重要な安定した経営を確保することはできている。

1. 事業概要

(1)法人名 社会福祉法人 松山紅梅会

(2)所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3)法人の事業

第1種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
軽費老人ホーム(ケアハウス)	梅本の里	30名	平成6年4月1日
介護老人福祉施設	梅本の里	61名	平成7年4月1日
	梅本の里ゆにっと	30名	平成26年8月23日

第2種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
通所介護事業	梅本の里	55名	平成6年4月1日
	梅本の里・小梅	45名	平成23年12月26日
短期入所生活介護事業	梅本の里	9名	平成7年4月1日
	梅本の里ゆにっと	10名	平成26年12月26日
在宅介護支援センター	梅本の里	—	平成7年4月1日
訪問介護事業	梅本の里	—	平成7年10月1日
認知症対応型共同生活介護事業	梅本の里	18名	平成13年5月15日

公益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
居宅介護支援事業所梅本の里	居宅介護支援	平成11年9月13日
松山市高齢者生き生き支援事業	生きがいデイ・家事援助	平成12年4月1日
事業所内託児所梅本の里・小梅	事業所内託児所	平成23年12月26日

収益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
—	太陽光発電の売電事業	平成25年4月1日

2. 役員構成

理事	定数	11人	(現員	11人、	欠員	0人)
監事	定数	3人	(現員	3人、	欠員	0人)
評議員	定数	25人	(現員	24人、	欠員	1人)

3. 理事名簿

平成29年3月31日現在

	区分	氏名	職歴（公職含む）	役員構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	理事長	亀本 堯	元愛媛県社会福祉協議会 事務局長	○				
2	副理事長	山之内 莞二	前高齢者総合福祉施設 梅本の里統括施設長	○				
3	理事	渡部 晴子	元小野地区社会福祉協議会 副会長		○			
4	理事	佐々木 信也	社会福祉法人愛隣園理事長	○				
5	理事	渡部 安一	前学校法人松山学院理事長	○				
6	理事	小澤 繁文	特別養護老人ホーム 聖マルチンの家施設長	○				
7	理事	阿部 龍昭	元小野地区社会福祉協議会 会長		○			
8	理事	門屋 征洋	前公益社団法人認知症の人 と家族の会愛媛県支部代表	○				
9	理事	福地 民子	小野地区社会福祉協議会会長		○			
10	理事	杉本 太一	高齢者総合福祉施設 梅本の里統括施設長			○		
11	理事	藤久 敬子	梅本の里・小梅施設長			○		

4. 監事名簿

	区分	氏名	職歴（公職含む）	役員構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	監事	八木 繁明	元連合愛媛事務局長					○
2	監事	牧 淑子	元小野地区社会福祉協議会 会長		○			
3	監事	佐藤 泰規	佐藤会計事務所					○

5. 評議員名簿

	区分	氏名	職歴（公職含む）	役員構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設 長	その 他	財務
1	評議員	亀本 堯	元愛媛県社会福祉協議会事務局長	○				
2	評議員	山之内莞二	前高齢者総合福祉施設 梅本の里統括施設長	○				
3	評議員	渡部 晴子	元小野地区社会福祉協議会副会長		○			
4	評議員	佐々木信也	社会福祉法人 愛隣園理事長	○				
5	評議員	渡部 安一	前学校法人松山学院理事長	○				
6	評議員	小澤 繁文	特別養護老人ホーム 聖マルチンの家施設長	○				
7	評議員	阿部 龍昭	元小野地区社会福祉協議会会長		○			
8	評議員	門屋 征洋	前公益社団法人認知症の人と家族 の会愛媛県支部代表	○				
9	評議員	福地 民子	小野地区社会福祉協議会会長		○			
10	評議員	杉本 太一	高齢者総合福祉施設梅本の里 統括施設長			○		
11	評議員	藤久 敬子	梅本の里・小梅施設長			○		
12	評議員	杉本 弘	元杉本建築木工所社長				○	
13	評議員	立川 百恵	愛媛県生活協同組合連合会顧問				○	
14	評議員	野村 和男	元旧株式会社メルファム四国支社 （日本郵便オフィスサポート株式 会社）				○	
15	評議員	杉野 康平	株式会社ドゥエル代表取締役				○	
16	評議員	森 一哉	社会福祉法人泰斗福祉会理事長	○				
17	評議員	宮内 隆正	元特別養護老人ホーム梅本の里 施設長	○				
18	評議員	渡部 克彦	松山市議会議員		○			
19	評議員	宮内 敏浩	前小野地区社会福祉協議会会長		○			
20	評議員	豊田 宣雄	豊田鮮魚店 社長 平井商店街振興組合理事長		○			
21	評議員	敷村 一元	えひめこどもの城職員	○				
22	評議員	谷向 知	愛媛大学大学院医学系研究科教授	○				
23	評議員	仙波 修	保険調査員		○			
24	評議員	松岡 司志	日本難病協会愛媛県副支部長				○	

6. 理事会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
28.5.21	11/11	<ol style="list-style-type: none"> 平成 27 年度事業報告に関する件 平成 27 年度決算報告並びに監事監査報告に関する件 各種規程並びに制定（案）に関する件 平成 28 年度 6 月賞与支給に関する件 	<ol style="list-style-type: none"> 全員一致で可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。
28.12.9	11/11	<ol style="list-style-type: none"> 定款変更（案）に関する件（資産の区分追加） 社会福祉法人制度改革による定款変更（案）に関する件 評議員選任・解任委員会運営細則（案）に関する件 	<ol style="list-style-type: none"> 原案通り可決された。 原案通り可決された。 細則第 10 条の報酬は支給することでの変更、その他は原案通り可決された。
29.2.3	11/11	<ol style="list-style-type: none"> 各種規程の変更（案）に関する件 評議員選任・解任委員の選定に関する件 評議員候補者の推薦に関する件 	<ol style="list-style-type: none"> 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。
29.3.25	11/11	<ol style="list-style-type: none"> 成 28 年度第 1 回補正予算（案）に関する件 各種規程の改定（案）に関する件 平成 29 年度事業計画（案）に関する件 平成 29 年度当初予算（案）に関する件 社会福祉法人松山紅梅会定款細則（案）に関する件 	<ol style="list-style-type: none"> 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。

7. 評議員会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
28.5.21	18/25	<ol style="list-style-type: none"> 平成 27 年度事業報告に関する件 平成 27 年度決算報告並びに監事監査報告に関する件 各種規程並びに制定（案）に関する件 平成 28 年度 6 月賞与支給に関する件 	<ol style="list-style-type: none"> 全員一致で可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。
28.12.10	17/24	<ol style="list-style-type: none"> 定款変更（案）に関する件（資産の区分追加） 社会福祉法人制度改革による定款変更（案）に関する件 	<ol style="list-style-type: none"> 原案通り可決された。 原案通り可決された。
29.3.25	23/24	<ol style="list-style-type: none"> 成 28 年度第 1 回補正予算（案）に関する件 各種規程の改定（案）に関する件 平成 29 年度事業計画（案）に関する件 平成 29 年度当初予算（案）に関する件 	<ol style="list-style-type: none"> 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。 原案通り可決された。

8. 職員の状況

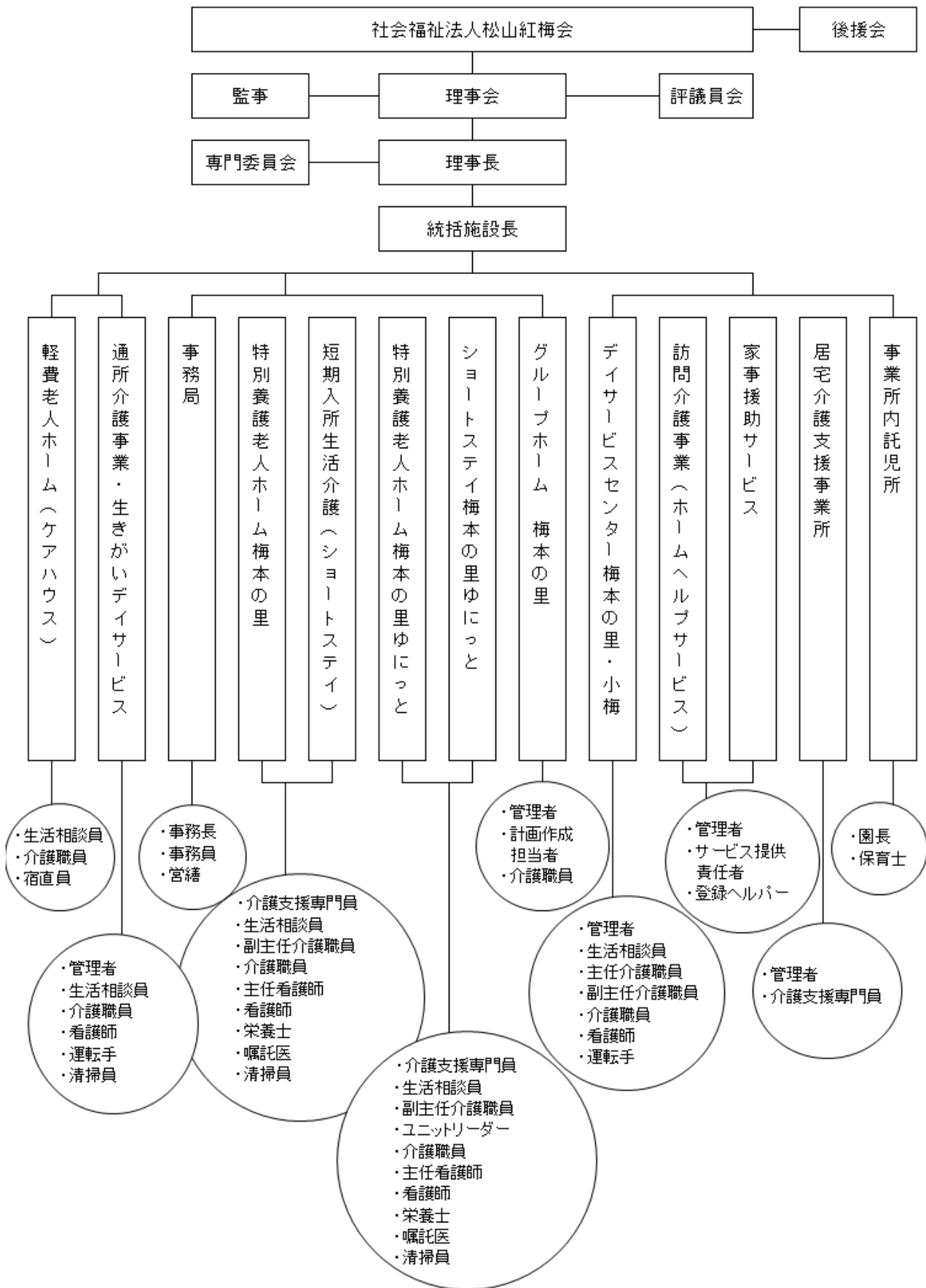
(平成29年3月31日現在)

		管 理 者	事 務 員	管 理 栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	生 活 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	計 画 作 成 担 当 者	サ ー ビ ス 提 供 責 任 者	そ の 他	合 計
軽費老人ホーム (ケアハウス)	実人数	1 (兼務)				1	(1)					2 (1)
特別養護老人ホーム (梅本の里)	実人数	1 (兼務)	5	1	1	1	18 (8)	3			1 (1)	31 (9)
特別養護老人ホーム (梅本の里ゆにっと)	実人数	1 (兼務)			1	1	12 (4)	2				17 (4)
通所介護事業 (梅本の里) 生きがいデイサービス事業	実人数	1				1	3 (7)	1 (1)			(1)	6 (9)
通所介護事業 (梅本の里・小梅)	実人数	1	1			1	2 (13)	(4)			(6)	5 (23)
短期入所生活介護 (梅本の里)	実人数	1 (兼務)					4					5
短期入所生活介護 (梅本の里ゆにっと)	実人数	1 (兼務)					5 (2)					6 (2)
訪問介護事業	実人数	1					(16)			2		3 (16)
居宅介護支援事業所	実人数	1		4								5
認知症対応型 共同生活介護事業 (グループホーム)	実人数	1					9 (4)		2			12 (4)
事業所内託児所	実人数	1									(5)	1 (5)
高齢者住宅与力団地	実人数										(1)	(1)
合 計	実人数	11	6	5	2	5	53 (55)	6 (5)	2	2	1 (14)	93 (74)

※ () 書きは非常勤職員

9. 運営組織図

平成 29 年 3 月 31 日現在



10. 防災訓練

【第1回】

- (1) 実施日時：平成28年10月5日（水）14時00分より
- (2) 実施内容：14：07分、デイルーム多目的室奥より火災発生。宿直職員が発見したことの想定により訓練開始。初期消火に努めるが延焼中。各部署に連絡し全部署避難誘導開始。連絡を受けた特養2F夜勤者が、緊急通報装置により119番通報。その後、災害時緊急連絡網により杉本統括施設長に連絡する。
- (3) 実施規模
参加人数：出勤職員 夜勤、宿直職員8名（夜間想定）、入所者、利用者（可能な限り）約30名
訓練方法：＜避難訓練＞ 特養・ケアハウス、グループホーム入居者を迅速に所定の避難場所へ誘導する。
＜消火訓練＞ ケアハウス玄関前にて、水消火器による消火訓練を実施する。
＜緊急連絡網検証訓練＞
災害時緊急連絡網を使用し、呼出があった後の自宅からの召集時間を検証する。
連絡網順位①杉本統括施設長（松山市北土居） 到着時間 14：34
②稲荷所長（伊予郡砥部町） 到着時間 14：35
③吉川雅人（東温市横河原） 到着時間 14：34

- (4) 講評・反省：

火災発見時に最も重要なのは大声で他の人に知らせること、そして消防へ連絡する前に消化できる範囲であれば迅速に消化にあたることである。今回、真剣に取り組んではいたが、声で知らせることと消化にあたることにおいて、取り組めていない部分が見受けられた。短時間で避難するのに有効な館内放送を使用する訓練も今後行うこと。

【第2回】

- (1) 実施日時：平成28年12月26日（月）14時00分より
- (2) 実施内容：14：37分、特養1F厨房付近より火災発生。大声で他職員に知らせ、消火栓で初期消火に努める。連絡を受けた他職員が他部署へ連絡し、直ちに避難訓練開始する。2F特養職員が消防へ通報（仮定）する。
- (3) 実施規模
参加人数：出勤職員全員（日中想定）、入所者、利用者（可能な限り）50名
訓練方法：＜避難訓練＞ 特養・ケアハウス、グループホーム入居者を迅速に所定の避難場所へ誘導する。
- (4) 講評・反省：

日中想定で多くの職員が関わり、迅速な動きがとれ、概ね円滑に避難場所に誘導できた。消火栓の使用については、使い慣れていない為、多少手間を取り、日頃の訓練の重要性が問われるところであった。

1.1. 協力医療機関

(1) 嘱託医師等の状況

医師名	中城 敏	永山 雄一	森 秀人
診療機関名	砥部病院	永山内科	こころのクリニック たちばな
診療科目	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科	内科・消化器科 循環器科	内科・神経科
勤務の形態	非常勤 (隔週火曜日午後回診)	非常勤 (隔週木曜日午後回診)	非常勤 (各週金曜日午後回診)

(2) 契約病院

病院名	医療法人 誠志会 砥部病院
所在地	伊予郡砥部町麻生40-1
院長名	中城 敏
診療科目	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ

病院名	永山内科
所在地	松山市北梅本町666
院長名	永山 雄一
診療科目	内科・消化器科・循環器科

(3) 協力病院

病院名	院長名	所在地	診療科目
中川病院	中川 泰範	松山市南梅本町甲58	内科・外科
石崎歯科医院	石崎 一成	松山市湊町2丁目2-1	歯科
永山歯科	永山 晃之	松山市北梅本町666-1	歯科
生島眼科	生島 操	東温市野田2丁目103-3	眼科
宮内皮膚科クリニック	宮内 俊次	松山市北梅本町甲899-4	皮膚科

12. 加入団体一覧

団体名	会長名	事務局所在地	年会費	所属
中予地区老人福祉施設協議会	木戸 敏満	松山市水泥町 405 番地 1 特別養護老人ホームていれぎ 荘内 TEL (089) 975-5558	20,000	特養
愛媛県老人福祉施設協議会	菅原 哲雄	松山市持田町 3 丁目 8-15 愛媛県社会福祉協議会地域福 祉部福祉人材課内 TEL (089) 921-8566	10,000	ケア
			20,000	通所
			20,000	
			124,800	特養
全国老人福祉施設協議会	石川 憲	東京都千代田区平河町 2-7-1 塩崎ビル 2 階 TEL (03) 5211-7700	20,000	通所
			20,000	
			99,500	特養
愛媛県ホームヘルパー協 議会	笠松美智子	松山市持田町 3 丁目 8-15 県社協地域福祉部内 TEL (089) 921-8912	15,000	訪介
愛媛県地域密着型サービ ス協会	入船 啓一	松山市土居田町 621-1 TEL (089) 974-1213	20,000	GH
松山市社会福祉協議会	村上 博	松山市若草町 8 番地 2 松山市総合福祉センター内 TEL (089) 941-4122	5,000	特養
小野地区社会福祉協議会	福地 民子	松山市水泥町 972-1 ふれあいサロン小野 TEL (089) 976-1200	1,000	特養
愛媛県中小企業家同友会	平野 啓三 田中 正志 杉本 太一	松山市大可賀 2-1-28 アイテムえひめ内 TEL (089) 968-3112	84,000	特養
認知症の人と家族の会 愛媛県支部	大澤孝市	松山市道後町 2-11-14 TEL (089) 923-3760	10,000	特養
愛媛県倫理法人会	重松 宗孝	松山市勝山町 1-10-1 松山共栄火災ビル 6F TEL (089) 987-7020	120,000	特養
松山市高齢者福祉連絡会	重松 速男	松山市小川甲 214 番地 1 特別養護老人ホームあわい内 TEL (089) 994-7787	10,000	特養
葉佐池クラブ	宮内 三造	松山市北梅本町 1629 宮内三造 TEL (089) 975-2162	30,000	特養
一般社団法人えひめ若年人 材育成推進機構	服部 正	松山市湊町三丁目 4 番地 6 松山銀天街 GET! 4 階 TEL (089) 913-8686	20,000	本部
平井町商店街振興組合	豊田 宣雄	松山市平井町 1385 豊田鮮魚 TEL (089) 975-0325	24,000	小梅
ONOSポーツクラブ	渡部 勝彦	松山市水泥町 961 デイサービスセンター梅本の 里・小梅 TEL (089) 970-8839	20,000	小梅

計 15 団体 693,300 円

13. 広告協賛一覧

日付	内容	金額
28.7.4	愛媛社会福祉士会 第24回社会福祉士会全国大会 広告協賛	5,000
28.7.26	(株)博報社 松山高連広報誌 第119号 賛助掲載料	21,600
28.9.16	松山市社会福祉協議会 若草福祉まつり2016 広告掲載料	5,000
28.9.23	愛媛県社会福祉協議会 第5回福祉用具フェア 広告掲載料	5,000
29.2.3	(株)博報社 松山高連広報誌 第120号 賛助掲載料	21,600

計 5件 58,200円

14. 職員研修一覧

	日時	研修名	主催 / 場所	参加者
1	28.4.5	新人社員合同研修	愛媛信用金庫/ 愛媛信用金庫研修センター	5
2	28.4.7	新人社員セミナー	愛媛県倫理法人会中予地区/ 伊予鉄会館	5
3	28.4.8	明日から使える“満室対策”	株式会社日本経営/ ピュアフル松山勤労会館	2
4	28.5.9	ミールラウンド・栄養サポート	カナザキ歯科/同左	1
5	28.5.10	デイサービス差別化セミナー 認知機能低下プログラム「シナプソ ロジー」の活用提案	株式会社ルネサンス/ ひめぎんホール	2
6	28.5.13	第1回総会・施設長研修会	中予地区老人福祉施設協議会 /国際ホテル松山	1
7	28.5.16	第12回愛媛県老人福祉施設退会	愛媛県老人福祉施設協議会/ ひめぎんホール	1
8	28.5.19	グループホームサービス評価説明会	愛媛県地域密着型サービス協 会/愛媛県生涯学習センター	1
9	28.5.21	愛媛県介護支援専門員協会発足式・ 記念公演会 「今、改めて介護支援専門員の役割 を認識する」	愛媛県介護支援専門員協会/ 愛媛県生涯学習センター	2
10	28.5.19	第1回東温市介護従事者連絡会	東温市地域包括支援センター /東温市農村環境改善センタ ー	1
11	28.5.29	愛媛県介護福祉士会特別研修会 「専門から学ぶ認知症の知識と介護 福祉士に期待すること」	愛媛県介護福祉士会/ 愛媛県武道館	2
12	28.6.2~ 6.3	第65回四国老人福祉施設関係者研究 大会	四国老人福祉施設協議会/ 高知県民文化ホール	4
13	28.6.5	職能交流集会	愛媛県看護協会/愛媛看護研 修センター	1
14	28.6.7	第1回小野・久米地区ケアマネ連絡 会	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区/ 松山リハビリテーション病院	3
15	28.6.7~ 6.8	日本看護協会通常総会及び全国職能 別交流集会	愛媛県看護協会/幕張メッセ	1
16	28.6.11	主任ケアマネ8期会 事例検討会	主任ケアマネ8期会/	1
17	28.6.14	第58回ケアネット小野・久米	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区/ 松山リハビリテーション病院	5

18	28. 6. 18	音楽表現・歌う	松山市保育会／松山市保健所	2
19	28. 6. 20	こだわりの入浴セミナー ～作業からケアへ～	愛媛県在宅介護研修センター ／同上	2
20	28. 6. 22	砥部町介護支援専門員等研修会 「成年後見制度の理解と支援方法について」	砥部町地域包括支援センター ／砥部町文化会館	1
21	28. 6. 24	グループホーム交流会	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区／松山リハビリ テーション病院	2
22	28. 6. 25	愛媛県ホームヘルパー研修会 「これからの訪問介護に求められる こと」	愛媛県ホームヘルパー協議会 ／愛媛県男女共同参画センタ ー	2
23	28. 6. 29	医療安全研修	愛媛医療センター／同左	1
24	28. 7. 2	防災に関する研究・研修会	愛媛県老人福祉施設協議会／ テクノプラザ愛媛	1
25	28. 7. 4～ 7. 8	民間社会福祉施設職員合宿研修会	社会福祉振興・試験センター／ ホテルルポール麹町	1
26	28. 7. 8	第1回認知症ケア研修会	愛媛県老人福祉施設協議会／ 愛媛県総合社会福祉会館	3
27	28. 7. 9	えひめ排泄ケア研究会	えひめ排泄ケア研究会／ 愛媛大学医学部	2
28	28. 7. 14	自立支援型ケアプランの書き方講座	株式会社アクティブサポ ート・つながるデイサービス ／つながるデイサービス	2
29	28. 7. 20	第2回小野・久米地区ケアマネ連絡 会「虐待についてみんなで考えてみ よう」	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区／ 松山リハビリテーション病院	4
30	28. 7. 21	松山市主任介護支援専門員研修会	松山市介護保険課／松山市保 健所	1
31	28. 7. 21	第3回東温市介護従事者連絡会 「認知症介護とターミナルケアにつ いて」	東温市地域包括支援センター ／東温市農村環境改善センタ ー	2
32	28. 7. 30	第1回デイサービスセンター職員研 修会	愛媛県老人福祉施設協議会／ 愛媛県勤労会館	2
33	28. 8. 5	第5回事例検討会	松山市包括支援センター小 野・久米地区／同上	1
34	28. 8. 8	砥部町介護支援専門員研修会 「高齢者の安全運転について」	砥部町地域包括支援センター ／砥部町中央公民館	1
35	28. 8. 18	第4回東温市介護従事者連絡会 「障害者差別法・虐待法」	東温市地域包括支援センター ／東温市農村環境改善センタ ー	1
36	28. 8. 26	小野久米地区介護保険関係者 管理者交流会	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区／松山リハビリ テーション病院	4
37	28. 9. 2	第14期同友会大学	愛媛県中小企業家同友会／ アイテムえひめ	2
38	28. 9. 10	職員連携研修会	愛媛県老人福祉施設協議会／ テクノプラザ愛媛	4
39	28. 9. 10	認知症の人がその人らしい生活を目 ざすために	愛媛県看護協会／愛媛看護研 修センター	1
40	28. 9. 12	接遇研修会	中予地区老人福祉施設協議会 ／愛媛県総合社会福祉会館	4
41	28. 9. 12	第14期同友会大学第1講	愛媛県中小企業家同友会／ アイテムえひめ	2
42	28. 9. 13	第59回ケアネット小野・久米	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区／ 松山リハビリテーション病院	6
43	28. 9. 15	グループホームネットワーク学習会 「新たなサービス評価に取り組も う」	愛媛県地域密着型サービス協 会／愛媛県生涯学習センター	1

44	28.9.17	地域医療連携を考える会	地域医療連携を考える会/ ホテル JAL シティ松山	3
45	28.9.21	愛媛県介護支援専門員地域リーダー 養成研修関連研修	愛媛県保健福祉部/愛媛県庁	1
46	28.9.17	第1回在宅医療懇話会 「各職種における在宅患者へのかかわり」	松山市医師会/同左	1
47	28.9.29	第14期同友会大学第2講	愛媛県中小企業家同友会/ アイテムえひめ	2
48	28.10.1	介護支援専門員業務の工夫と効率化	愛媛県介護支援専門員協会/ 愛媛県医師会館	1
49	28.10.8	知れば納得！介護への想いも変わる	認知症の人と家族の会/ 松山赤十字病院	3
50	28.10.11	これからの介護予防、健康寿命の伸ばし方	株式会社ユーマーケア/ フジカンパニーズ研修センター	1
51	28.10.12	第3回小野・久米地区ケアマネ研修会 「スーパービジョンの基礎を学ぼう」	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区/ 松山リハビリテーション病院	5
52	28.10.13	松山市通俗医学講座 「認知症の人と家族、そして支える人たちへ」	松山市医師会/松山市民会館	2
53	28.10.13	ノロウイルスの特徴と感染防止対策のポイント	愛媛医療センター/愛媛医療センター	3
54	28.10.13	第14期同友会大学第3講	愛媛県中小企業家同友会/ アイテムえひめ	2
55	28.10.14	中小企業家同友会の現状と未来について	徳島県中小企業家同友会/ 徳島グランヴィリオホテル	1
56	28.10.19	松山市高齢者福祉連絡会	松山市高齢者福祉連絡会/ 松山市社会福祉協議会	3
57	28.10.20	第5回東温市介護従事者連絡会 「在宅医療への当社薬剤師の取り組み」	東温市地域包括支援センター/ 東温市農村環境改善センター	1
58	28.10.21	ケアマネジャーとサービス事業所連携によるケアプラン作り	株式会社アクティブサポート・つながるデイサービス/ つながるデイサービス	1
59	28.10.21	同友会運動と企業作り運動は不離一体～素直な同友会運動による企業再生への道～	徳島県中小企業家同友会/ 阿南ひまわり会館	1
60	28.10.27	第14期同友会大学第4講	愛媛県中小企業家同友会/ アイテムえひめ	2
61	28.10.28	高齢者の摂食嚥下に関する問題と介助のポイント	南高井病院/同左	1
62	28.11.2	改正男女雇用機会均等法及び育児・介護休業法等について	愛媛労働局雇用環境・均等室/ 松山若草合同庁舎	1
63	28.11.5	看護師職能Ⅱ研修会 高齢者施設における看取り	愛媛県看護協会/ 新居浜市文化センター	1
64	28.11.9	看護職のセカンドライフをイメージする！	愛媛県看護協会/愛媛県看護研修センター	1
65	28.11.10	第14期同友会大学第5講	愛媛県中小企業家同友会/ アイテムえひめ	2
66	28.11.13	第2回味酒野ていれぎ荘地域交流研修会 「地域包括ケアシステムの構築に向けて」	味酒地区まちづくり協議会研修会/ 味酒野ていれぎ荘	1
67	28.11.19	看護師職能Ⅱ研修会 高齢者施設における看取り	愛媛県看護協会/ 市立宇和島病院	1
68	28.11.22	介護・福祉事業者のコンプライアンス・虐待防止セミナー	あいおいニッセイ同和損害保険(株)/松山コミュニティセンター	1
69	28.11.24	第14期同友会大学第6講	愛媛県中小企業家同友会/ アイテムえひめ	2

70	28.11.26	看護職能Ⅱ研修会 高齢者における看取り	愛媛県看護協会／愛媛大学	1
71	28.12.8 ～12.9	四国ブロックカンントリーミーティング	愛媛県老人福祉施設協議会／ 徳島グランヴィリオホテル	1
72	28.12.11	愛媛県ホームヘルパー基礎研修会	愛媛県ホームヘルパー協議会 ／松前町総合福祉センター	2
73	28.12.12	経営指針文化セミナー	愛媛県中小企業家同友会／ アイテムえひめ	2
74	28.12.13	第60回ケアネット小野・久米	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区／ 松山リハビリテーション病院	4
75	28.12.13	企業が変わる！イクボス実践研修	松山市男女共同参画推進財団 ／松山市男女共同参画推進センター	1
76	28.12.15	第二回地域ネットワーク・コミュニティ	介護労働安定センター／ アイテムえひめ	1
77	29.1.7	ノーリフト導入で腰痛予防	介護を考える会／松山市男女 共同参画推進センター	1
78	29.1.11	第4回小野・久米地区ケアマネ研修会 「事例検討～よりよい支援のために～」	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区／ 松山リハビリテーション病院	5
79	29.1.14 ～1.15	経営指針文化セミナー 経営理念	愛媛県中小企業家同友会／ 今治湯ノ浦ハイツ	3
80	29.1.20	もう迷わない！ケアプラン作成上の コンプライアンス	松山市社会福祉協議会／ 松山市総合福祉センター	1
81	29.1.25	明日から使える！これであなたも吸引 マスター！	愛媛医療センター／同左	1
82	29.1.27	第96回愛媛教育研究大会	愛媛大学教育学部／愛媛大学 教育学部附属特別支援学校	1
83	29.2.3	経営指針文化セミナー 経営方針	愛媛県中小企業家同友会／ アイテムえひめ	2
84	29.2.4	看護師職能Ⅱ研修会 「介護施設における看護リーダーの 役割」	愛媛県看護協会／愛媛県看護 研修センター	1
85	29.2.20	経営指針文化セミナー 経営計画	愛媛県中小企業家同友会／ アイテムえひめ	2
86	29.2.21	体圧分散のポイント	愛媛医療センター／同左	2
87	29.3.9	経営指針文化セミナー 社内への浸透（PDCA）	愛媛県中小企業家同友会／ アイテムえひめ	2
88	29.3.11	コミュニティー緩和ケア	四国がんセンター／同左	1
89	29.3.14	第61回ケアネット小野・久米	松山市地域包括支援センター 小野・久米地区／ 松山リハビリテーション病院	6
90	29.3.17	第3回ケアワーカーズカフェ	愛媛県社会福祉協議会／ デイサービスセンター梅本の 里・小梅	3
91	29.3.18	第2回在宅医療懇話会 「創作症例から学ぶケアカンファレンス」	松山市医師会 ／松山市総合コミュニティセンター	2
92	29.3.28	経営指針文化セミナー 経営指針発表	愛媛県中小企業家同友会／ アイテムえひめ	2

合計 参加研修： 92件 参加人数： 192名

15. ヒヤリ・ハット及び事故発生状況

●ヒヤリ・ハット発生状況 総件数 221件

【ヒヤリ内容】

事故内容	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
内出血	37	0	14	0	0	0	0	0	51
外傷・内傷	24	4	5	1	9	1	1	0	45
所在不明	15	1	0	0	6	0	2	1	25
転倒・転落	8	4	0	0	1	1	10	0	24
異食	3	0	1	0	2	0	1	0	7
滑落	3	2	0	0	0	0	0	0	5
器物破損	2	1	0	1	0	0	0	0	4
誤嚥	1	1	1	0	0	0	0	0	3
服薬関係	1	1	0	0	0	0	0	0	2
与薬	0	0	0	0	0	2	0	0	2
紛失	1	0	1	0	0	0	0	0	2
その他	16	4	17	3	3	2	5	1	51
合計	111	18	39	5	21	6	19	2	221

【所見】

所見	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
表皮剥離	1	0	1	1	0	0	0	0	3
内出血	47	4	10	0	4	0	0	0	65
外傷	6	0	3	0	2	1	0	0	12
打撲	0	1	0	0	0	0	1	0	2
誤嚥	0	1	1	0	0	0	0	0	2
その他	8	1	0	2	0	0	0	0	11
無し	10	2	5	0	8	5	0	0	30
異常なし	39	9	19	2	7	0	18	2	96
合計	111	18	39	5	21	6	19	2	221

【場所】

場所	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
居室	46	10	13	3	2	0	1	1	76
食堂ホール	35	6	9	0	7	0	0	0	57
廊下	1	0	0	1	0	0	2	0	4
トイレ	9	0	9	1	0	0	2	0	21
脱衣場	7	2	6	0	3	0	0	0	18
浴室	9	0	2	0	4	1	4	0	20
フロア	0	0	0	0	0	4	5	0	9
玄関前	0	0	0	0	0	0	3	0	3
施設外	0	0	0	0	0	1	2	0	3
その他	4	0	0	0	5	0	0	1	10
合計	111	18	39	5	21	6	19	2	221

●事故発生状況 総件数 387件

【事故内容】

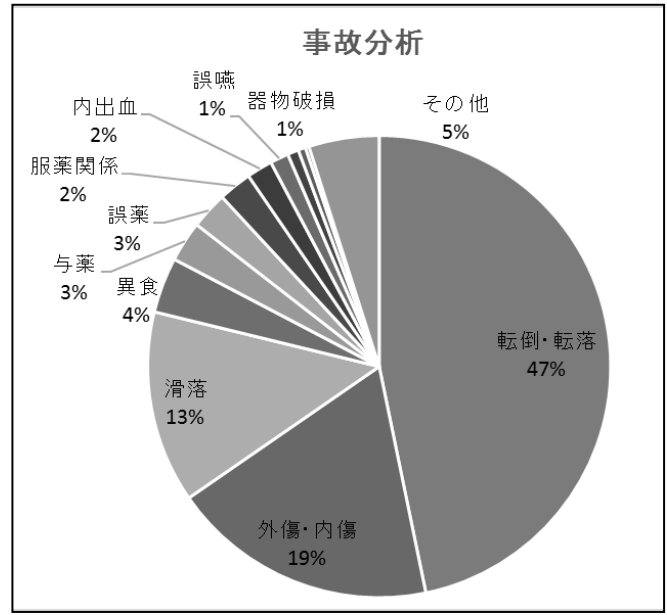
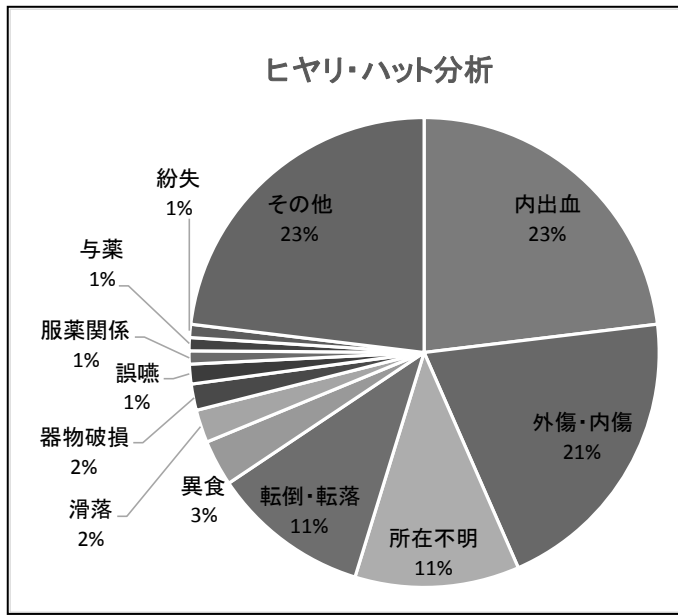
事故内容	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
転倒・転落	59	15	43	4	37	7	16	0	181
外傷・内傷	44	11	4	2	6	3	2	0	72
滑落	32	5	11	1	3	0	0	0	52
異食	8	0	1	1	1	0	4	0	15
与薬	0	0	8	2	1	0	0	0	11
誤薬	1	0	5	0	4	0	0	0	10
服薬関係	5	1	0	0	3	0	0	0	9
内出血	5	0	2	0	0	0	0	0	7
誤嚥	1	1	3	0	0	0	0	0	5
器物破損	1	1	0	0	0	0	0	1	3
所在不明	0	0	0	0	2	0	0	0	2
熱傷	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	9	1	6	1	0	0	2	0	19
合計	165	35	83	11	57	10	25	1	387

【所見】

所見	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
表皮剥離	25	9	5	1	1	0	0	0	41
内出血	9	0	1	1	2	1	2	0	16
外傷	18	3	4	1	8	6	2	0	42
打撲	9	5	5	0	0	1	2	0	22
骨折	0	1	2	0	0	0	1	0	4
誤嚥	1	1	1	0	0	0	0	0	3
その他	13	1	3	2	1	0	2	0	22
無し	4	1	4	1	18	2	16	1	47
異常なし	86	14	58	5	27	0	0	0	190
合計	165	35	83	11	57	10	25	1	387

【場所】

場所	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
居室	68	22	19	5	21	0	3	0	138
食堂ホール	59	9	33	2	21	0	0	0	124
廊下	5	0	8	2	1	0	5	0	21
トイレ	12	3	16	0	6	1	0	0	38
脱衣場	15	1	3	0	1	0	0	0	20
浴室	5	0	4	1	2	2	0	0	14
フロア	0	0	0	0	0	2	9	0	11
施設外	0	0	0	0	0	5	4	0	9
その他	1	0	0	1	5	0	4	1	12
合計	165	35	83	11	57	10	25	1	387



H28年度 ヒヤリ・ハット、事故発生状況について検証

<特養・ショート>

ヒヤリハット報告数 特養：111件 ショート：18件
 事故報告書 特養：165件 ショート：35件

ヒヤリハット・事故報告総数は329件（前年度439件）となり、前年度より110件減となった。又、その内の事故報告件数は200件（前年度132件）となっており、合計で69件の増となった。事故報告件数が増加しているのは、平成27年度の監査の指摘事項により、平成27年度11月よりヒヤリハットと事項報告の報告方法を変更したことが影響している。

発生内容は1位、転倒・転落・滑落2位、外傷・内傷（剥離・内出血）3位・所在不明となっている。3位の所在不明の内容については、別の入居者の居室に居たや、2Fの入居者が1Fにエレベーターで降りていた等の内容で、外に出て行方不明になった等という大きな事故には至っていない。

総数から分かるように全体的に見て、平成28年度は前年度と比較してヒヤリハット・事故報告が少なく病院受診に至る大きな事故も大幅に減少した一年となった。原因としては職員不足によることで、職員一人ひとりに例年以上に緊張感が持てたことが考えられる。ただ、検証からも分かるように、11月以降あたりから同じ内容のヒヤリ及び事故が続いており、新人職員が増えた事等により「報・連・相」が欠落しがちな結果だと思われる。このことより、平成29年度は再発防止に力を入れていき、リスクマネジメントを通して職員のレベルアップを図っていきたい。

H28年度 特養リスクマネジメント委員会開催状況

H28年4月12日(火)	H28年3月のヒヤリハット、事故報告の検証 エレベーターで入居者が移動されており所在不明が4件あった。また、水分のトロミ剤ではあったが、食堂内での異食行為が1件あった。このようなことをうけ、食堂の見守りは細心の注意を払っていききたい。
H28年5月17日(火)	H28年4月のヒヤリハット、事故報告の検証 同じ入居者がティッシュの異食行為が2件あった。誤嚥事故に繋がる恐れもある為、職員が食堂を離れる時は必ず声掛けを行っていき、常に見守りが出来ている状況を作るように今後も気をつけていききたい。
H28年6月17日(金)	H28年5月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒により後頭部を2cm程裂傷する事故が1件起こった。特に異常は見られず、定期的な受診での対応となった。今後は見守りを更に強化し再発の防止に努めたい。また、以前に発生した骨折事故の後のコルセット装着が、正しくできていないことが時々見られている。このことから、どの事故に関しても正しいアフターケアが行っていけるように注意していききたい。
H28年7月11日(月)	H28年6月のヒヤリハット、事故報告の検証 滑落、転落事故が合計で8件発生した。うち1件は左眼を裂傷され4針の縫合処置を受けている。実際にフロア内での常時付き添いが難しいこともあるため、滑落や転落の可能性が高い方は机の前に居てもらおう等して、滑落、転落の防止に努めていききたい。
H28年8月15日(月)	H28年7月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大きな事故は起こっていない。先月に滑落、転落された方の事故はなかったが、他の入居者の滑落、転落が数回見られた。致命的な傷等は無かったが、今後大きな事故に繋がらないように今後も見守り強化を図っていききたい。
H28年9月9日(金)	H28年8月のヒヤリハット、事故報告の検証 ショートステイの利用者の方で先々月、先月で合計3回居室内で転倒されている。幸いにも重篤な事故には至っていないが、今後はベッドセンサー、マットセンサーを共に設置し歩行時は付き添いを行うようにしていきたい。また、夜間不穏時は夜勤者の1人が必ず付き添うようにしていきたい。
H28年10月19日(水)	H28年9月のヒヤリハット、事故報告の検証 外傷の12件の内6件が表皮剥離であった。事故内容としては職員側が原因の表皮剥離が比較的多かったため、特に皮膚が弱い方は腕抜き・足抜きを着用し安全に移乗することを再度徹底していききたい。また、車イスからの滑落事故が2件滑り止めシートの敷き忘れて発生しているので、車イス移乗時に滑り止めシートが敷かれているかを必ず確認するようしていきたい。
H28年11月14日(月)	H28年10月のヒヤリハット、事故報告の検証 ショートステイ利用者の方の一人で事故、ひやりが5件発生した。そのうちの3件が表皮剥離のため下記のような対策で徹底していく。 ・入浴時の脱衣は、座位機械浴に移乗する直前に行く。 ・入浴時、腕抜きと足抜きの着用。 ・車イスのフットレスカバーを付ける。 この3点に心掛け事故、ひやりの軽減に努めたい。
H28年12月8日(月)	H28年11月のヒヤリハット、事故報告の検証 服薬関係の事故が2件発生した。2件とも床に薬が落ちており服薬が未確認であった。しばらく服薬関係の事故は無かったため、配薬

	担当の職員は確実に服薬して頂くように再認識し、再発を防止したい。また、入居者の一人の転倒が 5 件発生した。外傷等はなく、大きな事故に繋がってはいないが頭を強打した時を想定してヘッドギアの着用等を試すなどしていくと共に、見守りを強化し転倒を防止したい。
H29 年 1 月 16 日 (月)	H28 年 12 月のヒヤリハット、事故報告の検証 全体的に大きな事故は減少している。ここ数ヶ月爪の剥がれが時々見られるため、ズボン、靴下の着脱時に気をつけることと、こまめな爪切りを心掛けていきたい。
H29 年 2 月 14 日 (火)	H28 年 1 月のヒヤリハット、事故報告の検証 内出血のひやりが多かった。原因としては、腕抜き足抜きがきちんと装着されていないことが考えられる。現実的な案としては入浴準備の際に衣服と一緒に腕抜き、足抜きを着替え袋に入れて準備してもらうことである。しかし、腕抜き足抜きの数量が不足しているため新しい物を購入しなければならない。
H29 年 3 月 15 日 (水)	H29 年 2 月のヒヤリハット、事故報告の検証 先月に引き続き、内出血のひやりが多かった。再度腕抜き、足抜き着用の対象者を忘れないようにしていきたい。また、発生からかなり時間経過した内出血が報告されているため、内出血や剥離を発見したらすぐに報告できるように観察力をさらに高めていきたい。

<ゆにっと・ゆにっとショート>

- ・ヒヤリハット報告数 ゆにっと：39 件 ショート：5 件
- ・事故報告数 ゆにっと：83 件 ショート：11 件

ヒヤリハット報告総数 44 件、事故報告総数 94 件となっている。平成 27 年度の監査指摘事項により、平成 27 年度 11 月よりヒヤリハットと事故報告の報告方法を変更したため、前年度に比べ、ヒヤリハット報告件数より事故報告件数が上回る結果となった。

発生内容は 1 位・転倒・転落・滑落(59 件)、2 位・内出血・剥離(20 件)、3 位・与薬関係(10 件)となっている。前年度と比較すると、内出血・剥離は、丁寧な介助を行うことでかなり減らすことができた。

一方で、転倒・転落・滑落が増加している。骨折など大事には至っていないが、ゆにっとの体制や入所者の身体状況、精神状態により完全に防ぐことは難しい。しかし、同利用者が繰り返し転倒していることから、最大限できる対応を更に話し合い、考えていく必要がある。

H28年度 ゆにっとリスクマネジメント委員会開催状況

H28年 4月22日(金)	H28年3月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒事故が1件、滑落事故が1件。いずれもショートステイの利用者で、居室にて発生している。どちらも外傷はなかったが、自力歩行する方で、ショートステイ利用中は在宅とは違う環境であるということを職員も意識し危険予測することで、未然に防ぐことができる可能性が高い。また、その方に合ったベッドセンサーの設定を再検討する。
H28年 5月27日(金)	H28年度4月のヒヤリハット、事故報告の検証 ゆにっと1Fにて誤薬1件、与薬関係のミスが2件発生。絶対にあってはならない事故であり、服薬の方法、最終確認方法の見直しを行った。一つのユニットだけで解決せず、隣のユニットとも情報共有することも必要である。
H28年 6月22日(金)	H28年度5月のヒヤリハット、事故報告の検証 ゆにっと2Fで誤薬1件、与薬関係が2件発生。先月の1Fでの事故報告を受け、注意喚起行っていたにも関わらず発生させてしまった。内2件は同じ職員によるミスである。緊急フロア会を開催、協議した。
H28年 7月15日(金)	H28年度6月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒事故が4件、うち1件はショートステイ利用者である。事故が発生しているのは、人間的に手薄になる夜間、起床、臥床の時間帯が多く、常時の見守りや付き添いは困難だが可能な限り対応していく。
H28年 8月8日(月)	H28年度7月のヒヤリハット、事故報告の検証 誤薬1件、転倒事故4件。転倒のうち1件において、利用者の極度の興奮状態にあり、他の入所者に危害が及びそうだったため職員が制止に入ったところ、興奮が更に増強し床に転倒。右脛骨高原外側陥没骨折という大事故を引き起こしてしまった。職員1人での無理な対応にも問題があったと考える。入所者の安全を確保することを考慮すれば、距離をおくことも必要であった。声かけ方法も見直し、再発防止に努める。
H28年 9月17日(土)	H28年度8月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒事故6件、滑落事故2件、与薬関係事故2件発生。同利用者が3回ずつ転倒し、防ぐ事ができなかった。滑落については、自力駆動する方のブレーキのかけ忘れによる事故であり、認知度から本人によるブレーキのかけ忘れを防ぐことは難しい。立ち上がった際、自動的にブレーキのかかる車椅子に変更することで少しでも滑落・転倒事故のリスクを減らす。
H28年 10月17日(月)	H28年度9月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒事故8件発生。先月2回、3回転倒された同じ方が今月に6回と2回転倒。骨折等外傷はなかったが、同日日に複数回転倒したことで、緊急ユニット会を開催した。不穏・興奮が大きな要因の一つであるため、傾聴・受容によって精神安定に努め再発防止を図る。
H28年 11月23日(水)	H28年度10月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒事故2件。排泄中に心筋梗塞を起こしたことによる転倒であり、職員が付き添い、見守りを行っていただければ防げたと思われる。もう1件は、歩行器使用し自力歩行する方であるがその時の歩行状態に合わせた援助を行う。
H28年 12月16日(金)	H28年度11月のヒヤリハット、事故報告の検証 誤嚥事故が1件発生。吸引による措置を行い直ぐに回復。原因として、普段キザミ食の方に一口大のさつまいもの天ぷらを提供してしまった。行事中であり、職員の気の緩みが誤嚥に繋がった。二度と起こさないよう重く受け止める。
H28年 1月24日(火)	H28年度12月のヒヤリハット、事故報告の検証 内出血が3件。発見が遅く、いつどうしてできたか不明な場合が多い。早期発見に努め、分析する必要がある。

H28年 2月20日(月)	H28年度1月のヒヤリハット、事故報告の検証 同入所者の転倒が2件発生。9月から転倒を頻回に繰り返しており、防ぐことができていない。時間帯や場所、本人の状態を24時間シートに落とし込み、分析していく。
H28年 3月23日(木)	H28年度2月のヒヤリハット、事故報告の検証 職員の少ない時間帯に転倒件数が多い。見守りができない時は、職員業に同行してもらうことで事故防止に繋げる。24時間シート作成することで、原因分析を行い事故は減少傾向である。

<グループホーム>

ヒヤリ・ハット報告数 21件
事故報告数 57件

ヒヤリ・ハット報告数21件(前年度88件)、事故報告数57件(前年度34件)、計78件で前年度と比較して44件の減となった。

ヒヤリ・ハット報告は主に内出血・所在不明・異食等、事故報告は転倒・外傷・服薬関連等であった。

転倒・滑落・転落が約半数を占め、見守りが行き届きにくい居室内での報告が多くあがった。転倒のリスクが高い方にはセンサーマットを設置し対応しているが、夜間帯は1人で見守りをしてこともあり、他の利用者の対応している時に事故が発生していることもあることから、今後も事故防止に向けて業務を工夫することが考えられる。

そして、利用者の身体機能低下もみられる為、毎日実施している体操や生活リハビリ等を継続し、身体機能維持と向上を図りたい。

服薬関連は、セットミスや確認不足での誤薬や飲み忘れがあった。セットミスに関しては、利用者の処方箋ファイルを確認しながら、薬をセットし、服薬時には職員同士で申し送りや確認を徹底することで改善に繋がっている。

職員全体が事故に対する危機感を持って、リスクを予測し、利用者の安心・安全に繋がっていききたい。

<デイサービス>

ヒヤリ・ハット報告数 6件
事故報告数 10件

ヒヤリ・ハット報告数6件(前年度5件)、事故報告数10件(前年度8件)、計16件(前年度13件)で、前年度と比較し3件増となった。

転倒関連では、施設外での転倒が4件あり、うち2件は病院受診となり大事には至らなかったが原因として挙げられるのは外出先での危機予測、利用者のアセスメント不足が原因として考えられる。日々の利用者の観察、職員の情報共有を十分に図りケアに努めなければならないと感じた。

再度、職員間の情報共有を行い、日々の利用者の身体状況を観察しながら緊張感をもち丁寧な気配り、心配りを意識し利用者の安全を第一に考えケアに努めなければならない。

<デイサービス小梅>

ヒヤリ・ハット報告数 19件
事故報告数 25件

ヒヤリハット報告数：19件（前年度 34件） 事故報告数：25件（前年度 21件）

内容：1位転倒・2位異食 3位沈溺

場所：1位フロア・2位施設外・3位浴室

H28年度の検証について、前年度同様転倒事故につながるものが多くみられた。中でも帰宅時間前の立ち座り時や躓きが多く、原因の一つに気持ちの焦りがあると思われる。また前年度にはなかった異食があり、利用者の認知症状の変化によるものと思われ、いずれにしても利用者の心身状態と認知症状の把握、危険予知不十分と考えられる。

H28.11月から情報共有の強化として、朝の申し送りの時間を三段階でしてきたが、今後も更に職員が利用者一人一人を理解し、緊張感をもって危機管理を徹底していく必要がある。

<訪問介護事業>

ヒヤリ・ハット報告数 2件
事故報告数 1件

事故報告については、器物破損が1件で利用者宅の駐車場に車を入れるときに塀の一部に接触してしまった。常に安全運転に気をつけて活動するよう周知徹底する。

ヒヤリハットについては、訪問すると利用者の方の転倒や所在不明だったが、緊急時の対応について家族の方と連携をとって迅速に対応ができたため、大事に至らなかった。

Ⅱ. 介護老人福祉施設事業

「特別養護老人ホーム梅本の里」

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

平成 28 年度は、同時期での退職者を多く出し、新たな職員の採用にも時間を要したことから、残された職員が時間外勤務で対応する状況が続き、その影響から研修や地域行事への参加を縮小しなければならない事態となってしまった。

「幸せのおすそわけが出来るプロ集団を目指す」のスローガンのもと、介護未経験者や若い職員への計画的な人財育成を図ることを目指していたが、介護技術と知識の向上については疎かとなってしまった部分が多い。

ただ、このような状況に陥り職員が少数化したことで、日常業務において職員が密に連携をとることが必要となり、今まで以上に職員間のコミュニケーションが図られたことから、チームケアの質がレベルアップする結果を生んだ。

自立支援の取り組みにおいては、目標としていた 1 日平均 1,200ml～1,300ml の水分摂取については、日常的に達成することができたが、食事時に椅子に座って頂くことや、個浴での入浴の推進については課題を残した。

2. サービス目標

①入居者の水分摂取と椅子、個浴

自立支援委員会が主体となって目標を職員へ伝達していくことを継続し、1 日の水分摂取量の平均 1,200～1,300ml を維持することができた。

ただし、食事中に車椅子から椅子に座って頂くこと、個人浴槽での入浴の取り組みに関しては目標を達成することができず、課題と改善点を残したが、職員への意識付けは徐々に浸透しており、更なる生活の質の向上に繋げるきっかけを作ることができた。

②職員の介護力向上

職員の退職から職員不足に陥り、目標に掲げていた職員の習熟度にあった外部研修への参加や施設内研修の開催が困難な状況となってしまった。

教育委員会を中心とした施設内研修にはできる限りの職員を参加させることに努めたが、職員不足を補うための時間外業務が多く、その影響から参加できない職員が多くなった。

これらの状況から介護力の向上目標についての達成度は低い結果となってしまった。

③外出・行事食

生活意欲を高めることを目指し、月 1 回の開催を目標とした少人数での外出行事については、介護力の向上目標と同様に職員不足を理由とし、目標の開催には至らなかった。

その反面でできる限り施設内行事の充実を図ることとし、施設内バーベキューをはじめ、行事食の機会や施設内でのレクリエーション活動を増やし、入居者が日常生活の中での楽しみや食への楽しみを失わないよう取り組んだ。これらの活動には多くの入居者が参加し、生活の中での楽しみとなっていることから、ある程度の成果を残せたと感じている。

3. 人財育成

総評及びサービス目標で記したとおり、職員不足の影響から、目標としていた介護未経験者や若い職員への人財育成は進展がない状況となってしまった。

年度末にはようやく職員配置における目処も立ってきたことから、今年度目標としていた内容について次年度の目標の中で取り組んでいくこととしたい。

4. 利用率

早期の予防対策により施設内での冬場の感染症の流行に繋がらなかったことや、入居者の健康維持を目標とし、介護、看護の両面での職員間の情報の共有に努め、一年を通して長期入院者が少なかったことから、平成 28 年度の目標利用率 97% を達成することができている。

1. 事業概要

(1) 施設名 介護老人福祉施設 梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6 0 0 5 . 9 8 m²

建物 2 9 9 6 . 4 2 m² (鉄筋コンクリート造り 2 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	842.02 m ²	相談室	1 室	15.52 m ²
静養室	1 室	16.50 m ²	洗濯室	1 室	41.40 m ²
食堂	2 室	868.48 m ²	介護材料室	2 室	72.11 m ²
浴室	1 室	69.30 m ²	事務室	1 室	100.42 m ²
洗面所	1 室	35.91 m ²	休憩室	1 室	12.84 m ²
便所	10 室	78.75 m ²	湯沸室	1 室	5.26 m ²
医務室	1 室	16.50 m ²	地域交流センター	1 室	80.73 m ²
厨房	1 室	183.65 m ²	ボランティア室	1 室	13.53 m ²
介護職員室	2 室	67.15 m ²	理美容室	1 室	20.79 m ²
機能訓練室	2 室	191.895 m ²	応接室	1 室	15.52 m ²
談話室	1 室	7.83 m ²	その他 (廊下、階段等)		240.315 m ²

(4) 居室の状況 (ショートステイ部分含む)

区分	室数	床面積	一人当面積 A
個室	30 室	492.52 m ²	16.42 m ²
4 人部屋	10 室	349.50 m ²	8.734 m ²
計	40 室	842.02 m ²	12.03 m ²

「特別養護老人ホーム梅本の里ゆにっと」

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

職員も定着してきたこともあり、手探りではあるがユニットケアにも意欲的に取り組み、開設当初には多くあった職員のマイナス的な発言も少なくなり、前向きにユニット型の運営に取り組めた1年であった。

入居者と家族とのコミュニケーションにおいても円滑な関係性を築け、平成 28 年度のスローガンとして掲げていた「小さな気遣いからはじめませんか？」に対してある程度の結果を残せたと感じている。

その一方で、職員が安定してきた中で日々の業務に慣れが生じた部分も見受けられたため、気の緩みからの事故等に繋がらないよう、ユニットリーダー間での連携を図り、更なるケアの向上に努めた。

2. サービス目標

①暮らしの連続性を大切にする「暮らしの継続」のために

個別ケアを目標とした 24 時間シート活用については、作成するまでは取り組むことができたが、今年度において活用までには至らなかった。

ただ、入居者家族とのコミュニケーションに力を注いだことで、入居者のより細かな情報を得ることには繋がっている。

②「家」と同じ環境づくり

ユニットケアの特性である個別ケアについては、入浴におけるマンツーマン入浴は基本として実施し、可能な限り個浴で入浴することに取り組んでいるが、入居者の ADL は入居当初に比べて低下していることも顕著であることから、その現実を踏まえた上での今後の個浴入浴の継続と入浴方法等が課題となっている。

③ユニットケアを展開できる人財の育成

ユニットリーダーを中心としたユニットケアの展開とサービス提供を目指し、ユニットリーダー研修に今年度は 2 名が参加したが、思うような現場でのサービス展開には繋がられなかった。ただ、各ユニットでの業務は定着しており、ユニット間で職員が必要以上に行き来することはなくなり、各ユニットでの室内活動も積極的に取り組んでいる。

又、目標としていた 5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) への意識付は、委員会の立ち上げに至らず、取り組むことができなかった。

④安心・安全な暮らしの実現

安全な環境を重視して目標としたオムツカート使用禁止については、排泄交換時の使用を求める声が職員から挙げたが、安全面の確保からトートバックの使用を徹底し、継続することができてはいるが、プライバシーの配慮に欠けるところもあり課題を残している。

又、職員の腰痛対策を目指した移乗時のスライディングボードの使用は、ベッドから車イスへの移乗時に活用し、職員の腰痛予防に一躍買っているが、入居者の状態によっては使用

が難しく、活用が定着していないユニットもあり、全面的に職員の負担が軽減されていると言えない部分もある。

⑤ターミナルケア(看取り)

開設当初より継続している「湯灌」については自然な取り組みとして職員間で定着している。ただ、平成 28 年度においては急変や入院先での永眠で退去となることが多く、ターミナルケアへの移行となることが少なかった。

今後の課題として、急変し永眠された場合においても、家族の希望がある限り「湯灌」を実施することに繋げたい。

3. 会議・委員会の充実

新たにリスクマネジメント委員会を立ち上げ、各ユニットからの事故報告の分析や情報共有など、改善に向けての話し合いの場となるよう取り組んだが、委員の情報発信の方法が決定できず、思うような成果が得られないまま多くの課題を残した。

又、身体拘束については、リスクマネジメント委員会の中で議題に上げ検討することができたが、5S 委員会については立ち上げにも至らなかった。

4. 利用率

目標利用率 96%に対して、97%の結果を残すことができ、目標を達成することはできたが、入居者の体調変化の早期発見に努めたものの、持病悪化による入院など防ぐことができず、多くの入院者を出してしまった。

1. 事業概要

(1) 施設名 特別養護老人ホーム梅本の里ゆにっと

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6 0 0 5.9 8 m² (特養併設)

建物 2 9 4 5.7 2 m² (鉄骨造一部鉄筋コンクリート造地上 3 階建地下 1 階)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	576.92 m ²	備蓄倉庫	1 室	12.32 m ²
共同生活室・ キッチン	4 室	201.0 m ²	洗濯室	1 室	24.03 m ²
浴室	6 室	93.13 m ²	汚物処理室	2 室	8.99 m ²
脱衣室	6 室	67.35 m ²	汚物集積室	1 室	13.46 m ²
便所	22 室	110.61 m ²	スタッフルーム	2 室	30.27 m ²
医務室	1 室	12.44 m ²	ゲストルーム	1 室	11.59 m ²
機能訓練室	1 室	12.55 m ²	霊安室	1 室	11.45 m ²
相談室	1 室	7.04 m ²	職員休憩室	2 室	27.07 m ²
介護材料室	1 室	6.1 m ²	レクリエーション ホール兼会議室	1 室	220.91 m ²
リネン庫	1 室	7.2 m ²	その他		1491.29 m ²

(4) 居室の状況 (ショートステイ部分含む)

区分	室数	床面積	一人当面積 A
ユニット型個室	40 室	576.92 m ²	14.423 m ²

Ⅲ. 認知症対応型共同生活介護事業

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

グループホーム本来の目的である家庭的な雰囲気のもと、身体介護と生活リハビリ中心の機能訓練、レクリエーションの提供を行い、自立支援に向けた支援の実現に向けて、平成 28 年度スローガン「幸せ溢れる笑顔のホーム」となるように取り組んだ。

日中はフロアで過ごす利用者が増え、利用者同士で談笑をしながら、一緒に協力して家事や掲示物の作成を行うなど、笑い声と活気ある生活の実現に繋がられた。

10 月には職員が出産のため正職からパート勤務への転換を希望したため慢性的な職員不足に陥り、職員一人ひとりの負担が増える形となったが、現状の職員で何が出来るか、業務内容を見直した結果、時間に余裕を生むことができている。その時間を有効活用できるようにアクティビティー委員会を中心としてレクリエーション活動に力を入れ、毎日の行事予定を作成し実施しているが、まだ思ったとおりの成果には繋がられていない。

2. サービス目標

①アクティビティーの充実

施設行事・地域行事に関しては例年通り参加できているが、個別サービスについては、職員不足に陥ったことで、実施回数の激減に繋がってしまった。

日々の生活で退屈となる時間がなくなるように、計算や漢字などの問題集を取り入れ、希望した時に提供できるよう取り組んだが、希望される方が限られ、思ったとおりの成果は得られなかった。

②役割づくり

入居者の方が家事等を積極的に行えるよう、生活の中で習慣化できた。職員が入居者の間に入り、利用者同士の潤滑油の役割をすることで、入居者間の会話に繋がり、家事を協力して行う場面が増えてきている。

③機能訓練

下肢筋力低下や活動量の低下を防ぐ為に毎日 10 時にラジオ体操、15 時にズンドコ体操を実施し、身体を動かせる時間を持つことに努めた。

又、季節に合った童謡の歌詞を毎月貼り替えて、利用者と一緒に歌うことで声を出す機会を設けている。

役割づくりとしての家事等にも積極的に参加できるように取り組み、活動の中でリハビリに繋げるように向けた。

ただ、室内活動の充実はある程度図られているが、屋外活動を通してのリハビリ実施には至らなかったことから、今後課題を残した。

④家族会

利用者と家族、職員が交流できる機会を設けるため、定期的に家族会や行事を開催し、平均で 4~5 家族の参加を頂くことができた。しかし、参加して下さる家族が毎回限定されてしまったことから、3 月には開催日や内容を見直すためのアンケートを各家族へ発送した。アンケートの結果をもとに、来年度の開催日や内容を検討し、より多くの家族の方が参加できることを目指す。

⑤認知症ケアの専門性を高める

情報を共有する為、施設内外研修に参加した際は、職員会議で報告するようにしているが、他の議題に時間をとられることが多く、報告ができないことがあったことから、議題に対する進行を見直すなど時間短縮を図り、研修報告の時間がとれるよう取り組んだ。

会議に参加できない職員については研修資料を配布し、研修に参加した職員から直接伝達するようにしている。

又、職員主体の認知症についての勉強会を開催したところ、利用者の認知症の症状に合わせて職員間での考察ができ、好評であったことから定期的な実施に向けれるよう今後取り組みたい。

⑥居室環境の整備

居室についてはクロスや床が経年劣化による破損と汚れが目立ってきているため、利用が中止となった方が出た時期に合わせた居室の改修を図り、平成 28 年度は 2 部屋の居室改修を実施した。

改修により新たな利用に少しでも早く繋がっていくことで、空室期間を短くすることの効果もあると期待している。

⑦働きやすい環境づくり

職場での悩みやストレスを抱え込むことがないように、6 月と 9 月に管理者面談を実施したが、10 月以降は職員の退職や正職がパート職員に変更になるなど、職員不足に陥ったことで、管理者も現場の対応に追われたため、予定していた 12 月と 3 月の管理者面談を実施することができなかった。

3. 利用率

看護師と介護職員が利用者の状態変化を迅速に察知し、家族や医師との報告・連絡・相談を密にとり、早期受診などに繋げることで、病気で入院リスクを軽減できた。

又、退去者が出た場合の空室期間が長期とまらない様に、待機者への迅速な連絡を心がけ、スムーズな入居へ繋げるよう取り組み、平成 28 年度は目標を 0.3 ポイント上回る利用率 97.3%を達成し、前年度比でも 1.1 ポイント増の結果を残すことができた。

ただし、人員配置の問題や居室料の設定を行っていないことから、収支面ではここ数年マイナス収支の結果が続いており、抜本的な業務や勤務体系の見直し、更には人員配置のスリム化が必要であることから、実現に向けて今年度より研究に入っている。

1. 事業概要

(1) 施設名 グループホーム 梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6005.98 m² (特養併設)

建物 719.50 m² (鉄筋コンクリート造り 3 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室 1	16 室	196.32 m ²	洗面所 1	16 室	40.32 m ²
居室 2	2 室	35.32 m ²	洗面所 2	2 室	5.36 m ²
押入	18 室	14.58 m ²	洗濯室	2 室	17.68 m ²
事務室	2 室	14.58 m ²	倉庫	2 室	47.05 m ²
食堂	2 室	118.5 m ²	トイレ	4 室	10.00 m ²
リビング	2 室	28.05 m ²	調理室	2 室	14.72 m ²
浴室	2 室	13.12 m ²	その他		122.6 m ²
脱衣室	2 室	10.10 m ²			
休憩室	1 室	31.20 m ²			

(4) 居室の状況

区分	室数	床面積	一人当面積 A
個室 1	16 室	249.60 m ²	15.60 m ²
個室 2	2 室	42.30 m ²	21.15 m ²
計	18 室	291.90 m ²	16.22 m ²

IV. ケアハウス事業

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

入居者が共助できる環境を整えることを目指し、自立生活の継続の為の身体機能維持を支援できるよう定期的な施設内外行事の充実を図り、楽しみが持てる環境の中で精神面の援助ができるよう努めた。

これらの基本的支援に加え、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」のスローガンのもと、入居者間の良好な人間関係の構築を目指し、入居者間や職員との関わりが多く持てるよう取り組んだ。

ただ、入居状況においては、身体的機能の低下や認知症の進行を理由に退去者が増え、年間を通じて空室が多くあった。又、新たに入居を希望される方においても、ケアハウスでの生活が困難であるとの判断に至るケースが多く、ケアハウス本来の入居対象となる自立した方の入居希望が減少傾向にあり、根本的な課題が残された。

2. サービスについて

①施設行事

入居者の高齢化や重度化が進み、できることが限られてきていることや、介助に対する職員の手が確保できない状況にある中での施設内行事の継続を考察した。その中で職員の手を介さず、入居者主体で日曜日に開催している音楽鑑賞の回数を増やしたところ、入居者より音楽鑑賞に体操を取り入れたいとの申し出があり、入居者同士の協力体制で行事内容を創り上げるなど、参加した利用者の意欲の活性化が見られた。

又、身体機能の低下から行事参加への意欲が低下している入居者に対しては、一人ひとりに声掛けを行い、一つでも多くの行事に参加できるよう促した。その行事の中でもティータイムは人気が高く、開催毎に 20 名程度の参加があったことや、毎月の外食行事を楽しみにしている入居者が多く、毎回 10 名程度の参加があるなど、食に対する行事においては一定の成果を残せている。

ただし、入居者の身体的機能低下の影響から、行事に参加できる方が限定されており、新たな行事に取り組めない課題もあった。

②地域行事への参加とネットワークづくり

地域行事である福祉の集いや、平井商店街の行事、幼稚園との交流会等については、早めの周知や掲示をおこなうことや、積極的に声掛けをかけ一人でも多くの参加があるよう努めたが、施設行事同様、身体的機能の低下の影響から限定された方だけの参加となっており、地域行事の参加については慢性的な課題となっている。

③食事・その他の生活習慣の向上

食事時間を通して入居者自身の自立意識が高まるよう、下膳が可能な方には下膳をして頂くよう声掛けするとともに、下膳場所から近いところに食事席を配置し、自立に向けた援助に努めた。ただ、新たに入居される方は入居時点で身体機能が低い方が多いことや、入居されている方の下肢筋力低下等を理由とし、19 名の入居者が配膳対応となっており、年々自立した生活から遠ざかる傾向にある。

嗜好調査については継続して実施し、楽しい夕べ等の行事食や、季節に応じたメニューに

調査結果を反映させることで、利用者の満足度が高まるよう努めた。

④感染症対策

各階に加湿器を設置、感染症が流行する時期には1日に2回（10時・15時）の共有部分の消毒と換気を実施、又、毎月の入居者運営懇談会において、感染症について注意喚起を行い、入居者に手洗い、うがいの励行を呼び掛けた結果、今年度において施設内での感染症の発症は防げている。

⑤居室環境の整備

現入居者の身体機能の重度化が目立ってきていることや、入居希望者においても身体的に不安を抱えている方が多くなっていることから、2年前から実施している居室のバリアフリー化への改修は継続し、今年度は1部屋の改修を実施した。

又、建物自体の老朽化が進み、居室ドアの故障が見られた為、今年度において12部屋の改修を実施した。

3. 利用率

平成28年度においては退去者が9名、新規入居者が12名となり、入退所の多い1年となった。退去の理由については身体機能の低下からケアハウスでの生活が困難となったことや、入院によるものである。

新規入居者については地域包括支援センターやケアマネ、病院の居宅等へ訪問し入退居状況を伝える活動を行い、多くの問い合わせや見学に繋がったが、その時点でケアハウスでの生活が困難との判断に至るケースが多く、空室期間を長引かせる原因となり、平成28年度利用率は89.2%の結果で、目標の97%を7.8ポイント大きく下回る結果となった。

1. 事業概要

(1) 施設名 軽費老人ホーム（ケアハウス）梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 1027.00 m²

建物 1888.03 m² (鉄筋コンクリート造り 5 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	30 室	675.90 m ²	機能訓練室	1 室	252.45 m ²
食堂	1 室	82.92 m ²	更衣室	1 室	8.11 m ²
浴室	2 室	67.67 m ²	娯楽室	1 室	86.05 m ²
洗面脱衣所	1 室	35.64 m ²	談話室	2 室	52.88 m ²
洗濯室	1 室	82.73 m ²	その他		390.79 m ²
トイレ	8 室	66.89 m ²			
事務室・相談室	2 室	48.7 m ²			
宿直室	1 室	12.04 m ²			
ゲストルーム	1 室	10.56 m ²			
会議室	1 室	14.7 m ²			

(4) 居室の状況（デイサービス部分含む）

区分	室数	床面積	居室付属設備			
			洗面所	便所	調理設備	その他
個室	30 室	675.80 m ²	有	有	有	

V.短期入所生活介護事業

「短期入所生活介護梅本の里」

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

平成 28 年度は、定期的に短期利用される利用者やその家族のケアに対する要望を大切に、対応する事で継続した利用に繋がるよう取り組んだ。

本来の短期入所の役割を重視するため、法律により長期利用に対する減算措置が課せられているが、利用者と家族の状況と要望を最優先させ、本来の役割と長期利用等のご希望に、できる限り対応しようと試みた。しかし、新規利用の希望者は長期利用の相談が多く、空き状況により利用に至らなかったケースが多くあった。

又、利用に繋がっても、入院や他施設への入所が決定するケースが多く、定期利用に繋がることが少なかったため、利用率においては苦戦を強いられた。

2. サービス目標

①在宅生活環境とADLの保持

利用中も在宅生活に近い環境を提供することに努め、個人浴槽での入浴や、歩行訓練を促すといった生活リハビリを中心としたサービスを実施した。

その結果、利用者のADLの低下を防ぎ、在宅生活の維持に繋がれたことで、家族の介護負担軽減にも貢献でき、定期利用者の継続利用に繋げることが出来た。

②職員の介護力向上

特養と同様、職員不足の影響から目指していた職員の介護技術や知識の向上には至らず、サービスの質の向上を目指す上での課題を残す結果となった。

3. 利用率

平成 27 年度の法改正後、継続した 30 日超過の利用は減算が発生するが、長期利用の相談と利用への要望は非常に多く、できる限り利用者や家族の要望に対応できるよう取り組んできたが、その反面で長期利用以外の新規の定期利用に繋がっていないことや、入院及び他施設への入所から定期利用のある方の利用が中止される 1 年となり、目標としていた利用率 93%を 7 ポイント下回る 86%となり、収支面では結果を残せなかった。

1. 利用実績表

(定員9名)

	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)						利用 率 (%)
				要支援 1・2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5	
4	20	216	7.2	1	1	6	7	1	4	80.0
5	16	206	6.6	0	0	6	6	2	2	73.8
6	17	238	7.9	0	1	7	6	1	2	88.1
7	17	247	8.0	0	1	5	8	1	2	88.5
8	20	237	7.6	1	0	5	9	1	4	84.9
9	20	216	7.2	0	0	6	8	3	3	80.0
10	17	259	8.4	0	0	4	6	4	3	92.8
11	18	235	7.8	1	0	5	5	2	5	87.0
12	17	242	7.8	0	1	4	5	2	5	86.7
1	19	241	7.8	1	1	5	6	2	4	86.4
2	17	218	7.8	1	0	3	7	1	5	86.5
3	16	252	8.1	0	0	4	5	1	6	90.3
計	214	2,807	7.7	5	5	60	78	21	45	85.4

「ショートステイ梅本の里ゆにっと」

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

目標とした家庭的な空間・くつろげる空間の提供に努めた結果、定期利用が増加傾向となっている。又、新規利用の問い合わせも多く、「梅本の里・ゆにっとショートステイ」の認知も定着し、ユニット型ショートとしての特性もアピールができていていると感じている。

ただし、利用料の側面から従来型特養ショートステイと比較されると、従来型特養ショートステイを選択されることも多く、利用者家族の経済的負担を考えるとやむを得ない状況となることから、金額の差を埋めるユニットの特性を行かせるサービス展開が今後課題として残った。

2. サービス目標

①基本サービスを当たり前提供できる環境づくり

ユニット特養同様、24時間シートの導入を行い、個別ケアの実施に向けることを目指したが、作成が思うように進まず、活用法において行き詰まっており、活用に至るまでまだまだ時間が必要と感じている。

利用については新規利用から定期利用へと繋がる事が多く、ゆにっとショートステイを利用することで、利用者の精神状態が安定し、自宅での介護が少し楽になったという家族からの感謝の言葉と笑顔をいただき、家族の休息やリフレッシュといったショートステイの役割りを果たせていると感じている。

②人財育成

ユニットケアの基本と本質を学び、独自のユニットケアを目指し、積極的に研修参加を実施したが、研修を受けた職員による施設内での発信や情報共有の方法が定まらず、それぞれの学びを活かすまでには至らなかった。

又、ショートステイは特養入居者よりも身体介護が軽度な利用者が多く、危険予測能力や緊急時の対応における職員教育の必要性を痛感した年であった。

③施設内通貨「うーめ」

自己選択、自己決定できるサービス提供を目指し、今年度において再度「うーめ」の活用についてチャレンジしたが、ショートステイでの使用価値や興味に繋がる方法を見つけることができなかった。今後は、施設内通貨の価値を見出せるか、または活用廃止かについて検討の必要がある。

3. 利用率

目標利用率 90%目標に対して、87%の結果となり、目標に3ポイント届かなかった。

これには、従来型ショートが空室の場合、経済的理由から従来型ショートを選択することが多く、空室を埋められなかったことも一つの要因である。

送迎の時間帯についても様々な要望があるが、特に多い夕食後の退所希望にしっかり対応することで好評を得ている。ただし、日曜日送迎には対応ができていない現状もあり、少なからず利用率への影響があることも否めない。

1. 利用実績表

(定員10名)

	介護保険利用									利用率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)						
				要支援 1・2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	
4	15	274	9.1	1	4	3	2	5	0	91.3
5	18	261	8.4	2	4	3	1	6	2	84.2
6	20	286	9.5	1	5	4	4	5	1	95.3
7	22	276	8.9	2	6	4	5	4	1	89.0
8	19	290	9.7	2	4	4	3	5	1	93.5
9	20	270	9.0	2	4	5	3	5	1	90.0
10	17	281	9.1	2	3	4	3	4	1	90.6
11	20	259	8.6	2	4	5	4	3	2	86.3
12	18	277	8.9	2	4	5	3	2	2	89.4
1	22	272	8.8	3	5	5	5	2	2	87.7
2	20	215	7.7	2	2	6	6	2	2	76.8
3	19	240	7.7	2	1	8	3	2	3	77.4
計	230	3,201	8.8	23	46	56	42	45	18	87.7

VI.通所介護事業

「通所介護事業 梅本の里」

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

開設より 23 年目を迎え、ハード面の劣化やサービスのマンネリ化が課題となり、ハード、ソフト両面においての抜本的改革が必要とされる時期であった。

ハード面においては浴室の改修やデイルームの改装を基本とし、入浴特化型のサービス展開や個別サービスの提供を考察したが、建物自体の耐用年数や同一建物のケアハウス事業の将来的な在り方を同時に考慮した場合、中期的ビジョンをもった改革が必要とされ、ハード面は今後の課題として残された。

ソフト面ではハード面の課題が残されたことから、入浴特化型サービスまでの展開ができなくなったが、現状においてできる入浴サービスの取り組みをサービス向上委員会で協議し、少人数でゆったりできる空間を提供することに向けた。

又、サービス提供時間についてサービス内容や業務を見直し、短時間コースから長時間コースまでの設定を目指したが、現状の業務の課題解決に至らなかったことや新たな発想に結び付かず、今年度においてのコース設定は断念した。

平成 28 年度の目標に対しては様々な壁に当たることが多くあったが、下半期には行事委員会を新たに発足し、改めて現状の行事を洗い出し、改善に向け各行事の長所と短所について協議したことで、望まれているサービスの展開に繋げることができ、下半期での利用率が上昇に向かった。

様々な課題と発見があった年であったが、スローガンの「安心して下さい！任せて下さい！輝く「笑顔」みんなの輪」については、「安心して下さい！＝信頼関係」「任せて下さい！＝柔軟なサービス」「輝く「笑顔」＝関わる全ての方の笑顔」「みんなの輪＝チームワーク」として利用者・家族・他事業所へのアピールポイントとなったと感じており、利用者はもちろん職員の笑顔のきっかけとなった。

2. サービス目標

①入浴特化型へのサービスを展開

入浴特化型のサービスを目指したが、設備改修面の取り組みは今後の課題となった為、ソフト面で現在できるサービスの提供へ転換した。

脱衣所や浴室内への誘導は 3～4 名の少人数での対応とし、心身共にリラックスできる落ち着いた空間の提供を実施した。多少の慌ただしさはあるが、これまでのような焦った雰囲気や、行動を急かすような職員の言動は消失している。

又、男性利用者は頭皮の油が多い為、男性用シャンプーを 3 種類取り入れその人に合ったものを提供することや、剃刀を常備し、髭剃りを確実に実施できる環境とした。洗身用のボディソープについては、洗身後泡切れが悪く痒み等の原因となり、乾燥肌の利用者に適さない為、ボディソープを中止し、固形石鹸で対応するなど、入浴空間としての原点を目指したサービスを実施した。

又、目標としていたサービス提供時間①3.5 時間コース<午前・午後>、②6.5 時間コース、③7.5 時間コースの設定については、現状における設定についての必要性や改正に向ける発想に至らなかったこと、設定することで現利用者や家族の混乱を招くリスクが大きいこと等の理由から、設定を見合わせることにした。

目指していた入浴特化型へのサービスは断念せざるを得ない状況となったが、他事業所からの短時間利用（入浴のみ）のケースについて積極的に受け入れたことで、短時間利用予定から6時間以上の利用に繋がったケースもあった。

②個別に向けたサービスを検討

設備改修について中期的計画で取り組むこととなったことで、目標としていたデイルームの抜本的な改装からのサービスを見直した明確なサービス展開については困難な状況となった。又、看護師の退職があり、機能訓練の加算についても全日取得が不可能となり、個別サービスにおける障壁となってしまった。

これらの状況から個別サービスの新たな展開は厳しい状況となったが、行事委員会を新たに発足させ、現状における行事について利用者の声を基に再検討した結果、求められているサービスの3つのキーワード「食べる・貰える・参拝する」を抽出し、キーワードを基本としたサービス提供することで、利用者にとって興味が持てるデイサービスに繋がった。

個別に向けたサービスについては、年末ビンゴ大会の景品で外出券を発行し、仲の良い方との外出を計画し実施、ゲーム等の景品でお参り券・コーヒーおかわり券・優先券等のサービス券を発行等、個々のニーズや楽しみを引き出し、生きがいに結び付けられるよう努めた。

☆3つのお楽しみキーワード

「食べる」：食べることしか楽しみが無いとの利用者の声

○外食：私らだけでは連れて行ってあげれないとの家族の声

→北斗七星、海鮮丼、そば吉、スシロー、家族（寿司ランチ） など

○食事の充実：外食は人目が気になるから行きたくないとの声

→そうめん祭り、焼き芋パーティー、おでん、すき焼き など

○手作りおやつ「今井屋」

→チョコバナナマフィン、白玉入りフルーツポンチ、みたらし団子、さつま芋のお焼き、バナナのパウンドケーキ、クリスマスケーキ、甘酒蒸しパン など

「貰える」：何かお得なサービスがあると、期待が膨らむとの声

→運動会、年末ビンゴ大会、新春カルタ大会、のど自慢大会 など

「参拝する」：お参りしたら、身体が元気になるとの声

→隻手薬師、西林寺、水天宮、椿神社、八坂寺、浄瑠璃寺 など

③職員の資質を向上

教育委員会が計画する感染予防対策、メンタルヘルス研修等には参加したが、目指すサービスが迷走してしまい、デイサービスの指針を明確に示せなかったことから、独自の研修や目的を持った他事業所の見学に至らなかった。

ただし、サービス提供にあたっての介護の基礎、利用者の自立性を維持できる介護技術、福祉車両の操作、声掛けや言葉遣いについては職員会議等で徹底し、専門性が高まることを目指した。

又、職員の個人面談については、目標より少ない回数の実施となったが、日頃から職場内での葛藤やストレスを打ち明けられるような対人関係を築き、就業中での意欲や楽しみ、働きやすい雰囲気保てることに繋がった。

④利用者の健康管理・感染症対策

送迎時において家族に在宅での状況を確認すること、利用時間中の些細な状態変化を報告することで利用者の状況変化に細かく対応した。又、定期的な消毒や掃除や加湿器の設置を徹底した事で、感染症の蔓延防止や入院等のリスクの軽減に繋がった。

利用者の体調の変化を早期発見・対応する事で、家族やケアマネジャーとの信頼関係も築くことができた。

3. 利用率

利用率は年々減少傾向にあり、デイサービス梅本の里の存続をかけた特化型サービスへの移行や、現状のサービス内容を検討する時期と捉え、目標の設定を行っていたが、上半期においてはデイサービスとして何を求められているのか、どうあるべきかについて迷走状態に陥り、具体的な改善に結び付けることができなかった。下半期にはサービスの細かなところへ視点を向け、人気のある行事についての充実を図ること等、細かな視点での方向性を打ち出し、試行錯誤した結果、僅かではあるが利用率が増加傾向に繋がった。

又、他事業所へ足を運び事業所のアピールに努めたことや、問い合わせの内容に応じた柔軟な対応をとったことが、体験利用へのきっかけとなり、平成28年度において体験利用者31件中28件が新規利用に繋がっている。

その反面で、週3～6日の固定利用者が特養やグループホームへの入所となるケースもあり、平成28年度の利用率25.8名/日と目標利用率28名/日を2.2名下回る結果となった。

1. 利用実績表

(定員55名)

	実人数	延人数	1日平均	利用者要介護度別内訳(人)							利用率(%)
				要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4	65	586	22.5	8	7	24	14	5	3	4	41.0
5	68	624	24.0	9	8	24	15	4	4	4	43.6
6	73	632	24.3	11	9	26	15	4	4	4	44.2
7	72	678	26.1	10	8	26	15	4	5	4	47.4
8	70	651	25.0	10	8	24	16	4	4	4	45.5
9	69	668	25.7	11	9	23	14	6	3	3	46.7
10	71	687	26.4	11	8	23	14	6	5	4	48.0
11	72	669	25.7	14	9	22	14	5	3	5	46.8
12	73	732	27.1	15	8	24	14	5	3	4	49.3
1	74	733	29.3	14	8	24	14	6	4	4	53.3
2	69	670	27.9	13	7	24	14	6	1	4	50.8
3	69	709	26.3	14	7	24	12	5	2	5	47.7
計	845	8,039	25.8	140	96	288	171	60	41	49	47.0

「デイサービスセンター梅本の里・小梅」

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

高齢者と子供が同じ空間で交流できる環境や、地域福祉の取り組みも認知され、多数の方に見学に来て頂き新規の利用にも繋がっている。

託児所があることで安心して仕事ができる環境であることから、育児休暇からの職場復帰にも繋がっており、長く働ける職場、人財確保の役割を担うことができています。

サービスとしては、開設当初からの基本理念である自己選択、自己決定、自己実現ができるサービスを継続して目指し、施設内通貨（うーめ）をツールとした個別ケアの実践に取り組んだ。サービスのマンネリ化に繋がらないよう、今年度において新たに「おもてなし委員会」を立ち上げ、業務改善や施設内行事の充実を図り、利用者一人ひとりが役割もてるサービスの提供を行い、楽しみと生きがい作りができるよう、サービスの質の向上に繋がった。

2. サービス目標

①利用者本位のサービス

新たに発足した「おもてなし委員会」により、年間行事計画を立案し、施設内行事やレクリエーションの充実を図ったことで利用者が楽しみをもち、意欲の活性化に繋げる事ができた。

近隣に畑を借りた事で託児所の子供達と一緒に野菜作りや収穫を楽しむことができ、更に収穫後に調理して食することで食事に対する喜びを感じ、一人ひとりの生きがいや役割づくりに繋がっている。

施設内通貨に関しては、昨年度立ち上げた「うーめ委員会」が中心となり、様々な意見を取り入れることを目指し、利用者一人ひとりの声を大切に要望の引き出しを図り、リハビリを中心とした個別メニューの実施や、利用者が意識をもって「うーめ」を活用できる仕組みの構築に努め、個別ケアの実践に取り組んだ。

毎年度、実践に向けられず、課題となっていた小梅独自のアセスメントシート「あゆみシート」については、現在職員が意識をもち作成を図っているところであり、利用者の個別のニーズや夢を実現に向け、充実した活用ができるよう取り組んでいる。

②特徴を活かしたサービス提供

小梅最大の特徴である高齢者と子供が同じ空間で過ごせる環境においては、これまでどおり日々の生活の中でのふれあいにより、利用者の笑顔と幸せに繋がっている。

玄関に設置した駄菓子屋についても地域の小・中学生が訪れていることや、小梅のスペースを活用して宿題をしたり、利用者と一緒に手作業を楽しんだり、自然に高齢者と地域の子供も交流できる環境を提供できている。

小梅が持つコンセプトも定着してきており、子供やその親、地域の方が自然に集う場となっていることから、福祉に関心をもてる場として地域福祉の理解を深める役割を担っていると感じている。

③職員の資質向上

事業所内研修で介護の基礎や技術、福祉車両の操作、事業所全体では感染予防対策やマニュアルの再確認、介護保険制度についての勉強会を実施したところであるが、年間計画において予定していた認知症や介護の心構え等の研修については、職員の勤務体制からの日程調整が困難で、今年度における目標に達することができなかった。

又、平成 28 年度から介護福祉士を取得するための制度が変わり、実務者研修が必須となったが、今年度においては 5 名の職員が受講し、知識や介護技術の向上、そして何より資格取得に対しての積極的な意欲が見られている。

④地域施設としての役割

平成 28 年度においても地域福祉の役割を担えるよう、地域の方々と連携を重視し、地域行事への参加や運営協力等を通じ、これまで以上の信頼関係の強化に努めた。

又、地域における施設の活用方法については、絵手紙教室や俳句教室を定期的に開催し、地域の方が多く参加されていることや、地域のソフトボールや総合型スポーツクラブ等の拠点としても活用されており、地域コミュニティーの場として地域の方が施設を活用できる環境となってきている。

又、10 月には地域の高齢者や小学生を対象とした「秋の収穫カフェ」を初めて開催した。地域サロンと大学生ボランティアにも協力をいただき、小梅農園で栽培した野菜を一緒に収穫した後に、チームに分かれ調理したものを食する企画であったが、初の試みであったものの、高齢者から小学生の幅広い世代がチームで考え、協議しながら目標を達成することで、自然に世代を超えた交流に繋がり、今後目指したい「ごちゃまぜの福祉」実現の一環となる有意義な行事となった。

3. 利用率

平成 28 年度は 4 月にインフルエンザが蔓延したことと、育児休暇職員があったことによる職員減の状況から体験利用の受け入れを中止したことも影響し、上半期は一時的に大きく利用率が落ちる状況となった。その後、他事業所への挨拶回りを実施し、体験利用の受け入れを再開したことで多くの新規利用に繋がり、利用率は安定した。

又、事業規模による報酬単価の減算にならない利用者ラインを見極めながらの利用者を受け入れを行い、平成 28 年度の利用率は 38.3 名／日と目標を 0.3 名／日の僅かであるが上回る結果を残すことができた。

1. 利用実績表

(45名)

	実人数	延人数	1日平均	利用者要介護度別内訳(人)							利用率(%)
				要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4	93	815	31.3	12	12	25	29	7	6	2	69.7
5	95	1,001	38.5	11	12	27	28	9	6	2	85.6
6	98	1,062	40.8	13	12	28	29	8	6	2	90.8
7	95	1,062	40.8	14	10	29	28	7	5	2	90.8
8	91	1,044	38.7	15	10	24	29	7	4	2	85.9
9	90	999	38.4	13	10	25	30	5	5	2	85.4
10	87	970	37.3	13	11	23	29	4	4	3	82.9
11	87	999	38.4	11	10	26	28	6	3	3	85.4
12	87	1,015	37.6	11	8	28	29	5	3	3	83.5
1	90	938	39.1	12	8	28	32	5	3	2	86.9
2	89	957	39.9	12	7	29	30	6	3	2	88.6
3	86	987	36.6	9	7	32	29	6	1	2	81.2
計	1,088	11,849	38.1	146	117	324	350	75	49	27	84.7

VII.訪問介護事業

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

平成 29 年度から介護予防訪問介護については予防給付の対象から除外され、市町村を中心とした「総合事業」へ移行され、訪問介護事業自体のサービスの在り方が大きく変貌することとなることから、その準備段階にあたる年となった。ただ、法的な変化はあっても、訪問介護のサービスを必要とされる利用者が多くいることも事実であることから「すてきな笑顔に感謝して誠意をもって訪問させていただきます」をスローガンとして平成 28 年度に挑んだ。

例年課題となっている人財の確保は全く進まず、現状の人員でのサービスの提供となったが、前年度より常勤ヘルパーを 1 名若返らせ、将来を見据えた体制作りに取り組んでいる。

人財確保面で目標とする変革に至らない部分はあるが、訪問介護事業所として大切にしなければならぬ、利用者の生活課題における「専門職としての支援が必要なもの」と「専門職としての支援でなくても可能なもの」という点を重視し、高齢化の課題は残されているヘルパーではあるが、その反面にある経験の豊富さを活かし、日々変化する利用者の要望や意向の把握に努め、利用者や家族とのコミュニケーションを大切にしながら専門職としてのサービス提供を行なうことができている。

2. サービスの目標

① サービスに繋げる情報共有の徹底

毎日のサービスの状況や利用者の様子を電話やメールで報告することで、迅速にサービス提供責任者が状況を把握でき、他事業者又は医療との連携に繋げ、問題の解決に対応することができた。

その結果、在宅で医療依存度の高い利用者において、訪問看護の方と連携をとりながら、水分だけしか摂取できなかった利用者が、普通食が取れるまでに回復するケースもあった。

② ヘルパー会の充実

ヘルパー全員を対象とし、月 1 回の開催を実施できた。情報の共有や課題に対する協議はもとより、普段の活動の中では顔を合わせる機会が少ないヘルパー間のコミュニケーションを図る場としても重要な機会となっている。

③ ヘルパーのモチベーションの維持

事務所は日々、登録ヘルパーが報告や相談に立ち寄れる雰囲気になっており、その中で活動における問題点や悩みを話すことができる環境になっている。ヘルパーが抱える悩みを吐き出せる場となっていることで、ヘルパーの身体状況や心の状態を知ることができ、現状を把握した上で個々の能力や特性を活かした活動に繋がられている。

3. 人財確保と育成

愛媛県が主催するホームヘルパー会の研修などに積極的に参加し、ヘルパーに必要とされる最新の技術と知識を学び、最善のサービスが提供できることに繋げた。

又、研修内容についてはヘルパー会で発表し、情報の共有に努め、日々の活動に活かせるよう取り組んだ。

4. 利用率

1年間利用者数	介護合計	504名	1ヶ月平均	42名		
	予防合計	341名	1ヶ月平均	28名		
1年間活動回数	介護合計	6,650件	1ヶ月平均	554件	1日平均	18件
	予防合計	2,230件	1ヶ月平均	185件	1日平均	6件

登録ヘルパーの確保と高齢化の課題があり、利用率の大幅な向上が期待できない現状にあるが、常勤ヘルパーがサポートするなどの活動継続に留意し、利用率の安定を図った。

1. 利用実績表

月	実人数	延時間	予防+要介護				障害者 居宅介護	
			実人数		回数	延時間	実人数	延時間
			要介護	予防				
4	67	682.6	41	26	634	682.6	0	0
5	68	699.1	42	26	649	699.1	0	0
6	68	675.1	41	27	629	675.1	0	0
7	66	700.1	41	25	666	700.1	0	0
8	66	761.5	41	25	731	761.5	0	0
9	67	770.8	39	28	762	770.8	0	0
10	70	804.1	42	28	815	804.1	0	0
11	72	766.6	43	29	768	766.6	0	0
12	73	816.0	43	30	815	816.0	0	0
1	74	798.0	43	31	789	798.0	0	0
2	77	767.8	44	33	757	767.8	0	0
3	79	894.5	45	34	863	894.5	0	0
計	847	9136.2	505	342	8,878	9136.2	0	0

VIII. 居宅介護支援事業

【平成 28 年度のまとめ】

1. 総評

平成 28 年は当事業所で 7 年の経験を持つ職員 1 名が定年退職を迎えたが、経験者の新規採用を事前に行い、常時 5 名体制を維持できた。新規採用職員が経験者であったことから、引継ぎに関してもスムーズに行なうことができ大きな混乱もなかったこと、又、他地区や事業所の情報なども得ることができたことで部署内に新たな風が入り、現状の職員にも良い刺激となった。

利用される方の秘めた想いや、関わる家族の想いに寄り添えるよう「その想いに寄り添える支援を目指します」を今年度のスローガンとしたが、経験年数によりケースへの対応力に差が生じている課題もあり、目標に対しては事業所として安定したサービスに繋がれなかった部分もあった。

ケアマネ個々の特性を考慮し、ケースを振り分けてはいるが、支援途中でどのような問題や課題が生じてくるかはわからないケースが多く、利用者や家族に対して真摯に向き合え考えることは出来ても、そこから具体的な支援方法や連携へと繋げ形にしていく事や、語る言葉の中にある真の想い、語られない背後にある課題を見極めていく技量に関してはまだまだ修得の余地があると感じる 1 年であった。

2. サービス目標

伝達研修による知識共有、他部署を交えてのケース検討会による連携の強化を目標にしてきたが、ケース検討に関しては部署内に留まる結果となった。

部署内での定例会は各自参加した研修内容の伝達、制度やサービスについての情報共有などを行なうことで確認ができる場ともなり、有意義な内容となっている。

ケース検討については、他部署を交えた開催となると、議題に挙げるケース提出に躊躇する面が見られ、他部署連携したケース検討の実施に到らなかった。部署内では何例かの検討を行い、それなりに有益ではあったが、進行や検討方法、内容の読み取り、視点の広げ方等、検討会そのもののレベルアップを図ることが必要と感じる部分が多くあり、課題を残した。

3. 利用率

介護 110 件／月 予防 31 件／月

年間通しての新規は 52 件（介護 39 件 予防 13 件）、利用終了が 33 件（介護 32 件 予防 1 件）となっている。又、要介護から要支援は 7 名、要支援から要介護は 8 名の結果となっている。

5 名体制をとり、介護 140 件／月、予防 31 件／月の目標としていたが、前年度比でも介護 11 件減の結果となり、目標・実績ともに大きく下回る結果となった。

収支面においても目標には遠く及ばず、体制を整えた上での結果に対して事業所としても反省点が多く、厳しい 1 年となっている。

1. 利用実績表

月	件数	要 介 護 度 別 内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4	132	12	12	43	38	12	7	8
5	137	15	12	44	38	9	9	10
6	138	14	15	46	36	10	8	9
7	140	13	13	51	37	9	8	9
8	141	14	14	49	38	9	8	9
9	136	17	15	43	37	8	8	8
10	139	17	18	47	33	9	7	8
11	143	20	15	49	33	10	7	9
12	148	19	14	52	37	10	7	9
1	148	20	14	54	34	10	7	9
2	152	23	13	55	33	12	7	9
3	149	21	14	57	31	11	6	9
計	1,703	205	169	590	425	119	89	106

Ⅸ. その他事業活動

1. 事業所内託児所小梅

【平成 28 年度まとめ】

1. 総評

平成 28 年度は職員の家庭の状況や、育児方針などに応じて柔軟に対応できることを目指した。

小規模保育ならではの一人ひとりの成長を細やかに見守りながら、日々の過ごし方、健康状態、言動などを伝えることで保護者と成長段階の把握を行い、安心、安全な保育ができるようにした。又、保育に関する心配や悩みなどが気軽に相談できる環境に努め、保護者との対話をできる限り持つことでお互いの信頼関係に繋がるよう努めた。

子供たちに対しては、デイサービスの利用者と一緒に季節に応じたイベントや外出を実施し、「小梅託児所」ならではの異世代交流の体験ができる環境とした。ただし、低年齢の園児が多かったため、高齢者と一緒にできることを保育士と介護士が相談しながら、お互いに無理のない交流ができるよう創意工夫をすることが必要であった。

地域とのふれあいや他園との交流も年齢に応じた経験ができるよう実施ができ、一年をとおしての様々な経験から成長に繋げることができている。

これらの様々な経験を通じ、「個性を大切に一人ひとりの成長を見守る保育を目指します」の目標を達成できたと感じている。

2. サービス目標

年間計画、月間計画を立案し、園児の利用状態に応じて柔軟な保育ができた。

また、低年齢、少人数であることから、個別性を大切にしながら「肯定感」の充足した日々が送れたと考ええている。

3. 利用率

平成 28 年度の開所日数は 284 日で延利用園児 908 名、一日平均利用 3.5 名となっている。

託児所があることにより、職員が育児休暇後に継続して就業できるとの安心感に繋がっており、平成 28 年度において 5 名の育児休暇中の職員があった。ただ、保育所については就学前の居住地域での保育を希望する保護者が多く、育児休暇後の職員全員が託児所を利用することにはならず、今後の安定した利用における課題は残っている。

2. 松山市高齢者生き生き支援事業

【平成 28 年度まとめ】

1. 生きがいデイサービス

生きがいデイサービス事業の実人数は 15 名程度であり、そのうち 70%が地域住民であることから、地域に根ざした施設を目指す窓口の一つとして、欠かせない事業と判断し、平成 28 年度も継続している。

全利用者対象のサービスを充実することを重点的に実施した為、目標としていた要支援・要介護の利用者のサービスの差別化までには至らなかった。

2. 家事援助

平成 28 年度で家事援助は廃止になることが決定され、ご利用者も最後の 3 ヶ月は 1 人と減り、介護保険に移行されることとなった。

(1) 利用実績表

月	生きがいデイサービス			家事援助		
	実人数	延人数	1日平均人数	実人数	延時間	1日平均時間
4	11	33	5.0	3	19.5	0.65
5	10	33	4.7	3	16.5	0.53
6	12	41	5.6	3	21.0	0.70
7	11	33	5.0	3	19.5	0.63
8	11	37	5.3	3	19.5	0.63
9	14	43	6.1	3	21.0	0.70
10	14	38	5.2	3	18.0	0.58
11	12	42	6.2	3	19.5	0.65
12	14	44	6.1	3	13.5	0.44
1	12	44	6.6	1	4.0	0.13
2	13	41	5.7	1	6.0	0.21
3	12	38	4.8	1	7.5	0.24
計	146	467	5.6	30	185.5	0.51

3. 高齢者住宅等生活援助員派遣事業

【平成 28 年度まとめ】

住民の方とのコミュニケーションや交流を図りながら、安否確認に努めた。
住民の方が安心して穏やかに生活できるよう、地域や行政機関と連携しながら見守りに努めた。

月	生活指導 及び相談	安否確認	一時的な 家事援助	関係機関 との連絡	緊急時の 対応	その他の 業務	計
4	0	172	4	2	1	21	200
5	0	190	6	3	2	19	220
6	101	189	10	2	1	21	324
7	150	199	14	1	1	21	386
8	164	216	21	1	1	21	424
9	163	202	19	1	1	21	407
10	174	210	18	5	0	23	430
11	161	208	19	0	0	22	410
12	156	194	21	3	1	22	397
1	132	163	19	2	0	20	336
2	145	179	18	0	0	19	361
3	151	186	20	1	3	21	382
合計	1,497	2,308	189	21	11	251	4,277

X. その他の活動

1. 施設実習受入状況

梅本の里だけでなく、小梅での実習が年々増えている。それぞれ実習の形態、目的、ご利用者との関わり方をしっかりと理解して頂けるよう指導や助言に努めた。

期 間	団体名及び個人名	活動内容	人員
H28. 4. 13～4. 26	松山城南高等学校	施設実習	2
5. 10～5. 11	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3
5. 13	愛媛大学医学部看護学科	フィールドワーク	4
5. 27	河原医療福祉専門学校	施設見学研修	6
5. 27	愛媛大学医学部看護学科	フィールドワーク	8
6. 1～6. 2	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3
6. 3	河原医療福祉専門学校	施設研修	5
6. 6～6. 17	みなら特別支援学校	施設実習	1
6. 16～6. 29	愛媛大学教育学部付属特別支援学校	施設実習	1
6. 20	松山大学	介護体験実習	2
6. 24	河原医療福祉専門学校	施設研修	5
6. 30～7. 1	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3
7. 11～7. 15	愛媛大学	介護体験実習	2
7. 18～7. 22	愛媛大学	介護体験実習	2
8. 4～8. 5	聖カタリナ大学社会福祉学科	介護体験実習	2
8. 8～8. 22	松山城南高等学校	施設実習	2
8. 8～8. 12	聖カタリナ大学	インターンシップ	1
8. 29～9. 2	東雲短期大学	介護実習	2
9. 5～9. 9	愛媛大学	介護体験実習	1
9. 6～9. 15	河原医療大学校看護学科	臨地実習	2
9. 28～9. 30	愛媛大学医学部看護学科	看護実習	7
10. 3～10. 7	松山大学	介護体験実習	1
10. 17～10. 21	介護労働安定センター	介護実習	1
10. 17～11. 18	河原医療福祉専門学校	介護実習	2
10. 19	旭中学校	職場体験学習	8
10. 26～10. 28	愛媛大学医学部看護学科	看護実習	7
10. 31～11. 18	松山城南高等学校	施設実習	1
11. 17～11. 18	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3
11. 24～11. 28	愛媛大学医学部看護学科	看護実習	7
11. 30	小野中学校	職場体験学習	2

12.1	小野中学校	職場体験学習	2
H29.1.16~1.20	松山城南高等学校	施設実習	1
2.16~2.17	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3
2.28	松山赤十字看護専門学校	施設研修	10
3.7	松山赤十字看護専門学校	施設研修	10
3.9	松山赤十字看護専門学校	施設研修	10

合計：36団体 参加人数：132名

2. 施設内研修状況（外部講師含む）

平成28年度では、介護のプロとして専門知識、技術の向上のため、現場の課題・要望を聞き取り、それに通じる外部講師を招き、研修参加を促し職員の教育・育成を目指してきた。研修に対する関心度は高くなってきたとはいえ、まだまだ自主的な参加は少ない現状にある。

【研修内容】

今年度は、新人職員、中堅職員対象の介護基礎研修以外に、責任者、管理者を対象とした研修も行い、運営管理、職員育成に重要な研修を行った。

また、感染症や口腔衛生などの施設内での衛生や看取り、接遇研修など、職員一人ひとりがどのように意識を持って介護することが重要かを学ぶ研修を中心に行った。

日時	研修名	講師名	対象者	参加者
H28年 4.1 4.4	<新入職員研修> ①法人理念・運営方針 ②労務管理・就業規則 ③地域貢献	①理事長・施設長・事務長 ②事務長 ③小梅所長・小梅相談員	新入職員	5名
4.6 4.8	<新入職員研修> ①事業所内託児所 ②デイサービス・ケアハウス ③経営理念と人材育成 ④グループホーム	①託児所園長 ②デイ所長・相談員・ケア相談員 ③施設長 ④GH管理者	新入職員	5名
4.11~4.15	<新入職員研修> ①認知症の方への関わり方 ②居宅・ヘルパー ③栄養学・医療知識 ④コミュニケーションとチームワーク ⑤特養・ゆにっと・ショート ⑥自立支援 ⑦基本介護 ⑧メンタルヘルス ⑨特別研修	①株式会社響 井上 和弘先生 ②居宅・訪問介護管理者 ③管理栄養士・主任看護師 ④(株)グッドコミュニケーション 代表取締役中田 康晴 先生 ⑤特養ケアマネ・特養・ゆにっと 相談員 ⑥同上 ⑦同上 ⑧NPO 法人こころ塾 代表理事 村松 つね 先生 ⑨施設長	新入職員	5名
4.27 5.25	口腔衛生研修	石崎歯科医院 院長 石崎 一成 先生	介護支援専門員 生活相談員 管理栄養士 介護職員	13名

7.4	介護技術研修	門屋 征洋 先生	介護職員	10名
7.12	感染症予防研修	富士産業株式会社 脇坂 先生	全職員	61名
9.6	特養における看取り	株式会社 響 井上 和弘 先生	全職員	38名
11.8	社会福祉法人会計研修会	小島泰三税理士事務所 所長 小島 泰三 先生	管理者 責任者	19名
11.24	感染症予防研修	恵美須薬品化工株式会社 渡辺 裕之 先生	全職員	45名
12.6	社会福祉法人会計研修会	小島泰三税理士事務所 所長 小島 泰三 先生	管理者 責任者	19名
H29年 2.10	色彩心理による社員研修	臨床色彩心理士 甲斐 利絵 先生	管理者 責任者	16名
3.16	組織で働くということ 介護現場における接遇の基本	積水ホームテクノ 介護事業研究会コンサルタント 佐藤 慎也 先生	全職員	31名

合計：参加人数： 267名

3. ボランティア受入状況

今年も定期的な月ごとの行事（絵手紙、カラオケ、書道、お花など）に多くの個人の方に来ていただき、又、中学校、専門学校などの学生さんも積極的に行事に参加して下さいました。

さらに、新しい団体の皆様にもお越しいただき、楽器演奏や歌、踊りと大変盛り上げて下さいました。

上記のたくさんの団体、個人の皆様にご心より感謝申し上げます、施設が活気良く、明るい雰囲気の中で暮らしていけるよう職員一同努めていきます。

今後も入居者様、ご利用者の生きがい、喜びが継続できるよう、ボランティアの皆様と交流を図り楽しい行事や催し物を計画していきたい。

	団体名及び個人名	活動内容	年間延人数
1	あいわクリーン 様	清掃ボランティア	2
2	青砥喜美 様	手作業・絵手紙教室 介助ボランティア	42
3	一般ボランティア 様	介助・レクリエーション・三味線等	5
4	伊予銀行小野支店コーラス部 様	歌・楽器演奏	11
5	伊豫の国松山水軍太鼓 様	うぐいす祭り	12
6	愛媛オレンジクラブ 様	民謡・日本舞踊	7
7	愛媛県理容生活衛生同業組合 様	散髪	19
8	愛媛新聞社音楽部 様	楽器演奏	14
9	大西 雅楽之蓬 様	三味線	5
10	奥村 京子 様	書道教室	40
11	越智 貢 様	手作業 介助ボランティア	15

12	小野エコーズ・ソルフェージュ・わかば 船橋ピアノ教室 様	うぐいす祭り・誕生会 コーラス・オペレッタ	163
13	小野おやじの会 様	うぐいす祭り 屋台	15
14	小野小学校音楽部 様	うぐいす祭り 金管楽器演奏	40
15	小野地区社会福祉協議会 様 ふれあいサロン小野 様	うぐいす祭り バザー 介助ボランティア 等	9
16	小野中学校 様	喫茶コーナー	90
17	門屋 征洋 様	施設内ボランティア フラワーアレンジメント うぐいす祭り 日本舞踊	54
18	河原医療福祉専門学校 様	介助ボランティア	2
19	河原医療大学校 様	夏祭り準備	5
20	菊野 暁子 様	俳句教室	22
21	北梅本幼稚園来所	歌、踊り	25
22	コール歩々 様	コーラス	10
23	コーロニコ 様	コーラス	15
24	サロン・ド・ハピ 様	マッサージ うぐいす祭り	17
25	柴田 恵美 様	語り	45
26	杉野工務店 様	夏祭り 準備、屋台	20
27	すみれグループ 様	大正琴	10
28	生命保険ファイナンシャルアドバイザー 協会 様	夏祭り準備等	5
29	立石純子舞踊教室 様	日本舞踊 夏祭り 盆踊り	42
30	玉井 秀典 様	ジャグリングショー	1
31	ダリアの会 様	歌・踊り	8
32	椿の会 様	歌、踊り	3
33	トキアンサンプル 様	音楽演奏	5
34	豊田 宣雄 様	うぐいす祭り等	1
35	中田 良子 様	絵手紙教室	22
36	日赤奉仕団 様	セラピューティック・ハンドマ ッサージ・介助ボランティア	67
37	ノエルクラフト教室 様	うぐいす祭り クラフト教室	4
38	梅花幼稚園 様 来所	歌、踊り	31
39	パナソニックヘルスケア 様	夏祭り 音響	6
40	番町教会すみれ組 様	縫い物	39
41	ひまわり会 様	カラオケ	12
42	富士産業株式会社	夏祭り屋台	3

43	藤本 泰二 様 (目白亭小弁)	落語	2
44	松岡 司志 様	詩吟・カラオケ	33
45	マッサージせとか 様	マッサージ	2
46	ムチューくん一座	歌、踊り	19
47	村上 京子 様	うぐいす祭り お茶会	11
48	村上 沙織 様	フラワーアレンジメント	8
49	安平 勝 様	ギター演奏	6
50	山本 幸乃 様	施設ボランティア	1
51	夢クラブ愛 様	三味線・民謡	27
52	ゆめはな会 様	三味線・尺八・歌	6
53	夢物語 様	日本舞踊	33
54	渡部晴子 (サロン日吉) 様	夏祭り 盆踊り	20

ボランティア協力 合計：54団体 延参加人数： 1, 131名